

海外食料需給レポート

(Monthly Report : 10月)

平成21年10月30日

農林水産省

目 次

I 穀物

1	2009/10年度の国際的な穀物需給の概要	1
	【参考】2009/10年度穀物需給予測の主な改訂	2
2	小麦	
(1)	国際的な小麦需給の概要	3
(2)	主要生産・輸出国等の需給状況	
ア	米国	4
イ	カナダ	5
ウ	豪州	5
エ	EU-27	6
オ	中国	6
カ	インド	7
キ	ロシア	7
ク	アルゼンチン	8
ケ	ウクライナ	8
3	とうもろこし	
(1)	国際的なとうもろこし需給の概要	9
(2)	主要生産・輸出国等の需給状況	
ア	米国	10
イ	中国	11
ウ	アルゼンチン	12
エ	ブラジル	13
オ	EU-27	13
4	大麦	
(1)	国際的な大麦需給の概要	14
(2)	主要生産・輸出国等の需給状況	
ア	豪州	15
イ	カナダ	15
ウ	米国	16
エ	EU-27	17
オ	ウクライナ	17
カ	ロシア	18
5	ソルガム	
(1)	国際的なソルガム需給の概要	19
(2)	主要生産・輸出国等の需給状況	
ア	米国	20
イ	アルゼンチン	21
ウ	中国	21

エ	豪州	22
オ	インド	22
6	米	
(1)	国際的な米需給の概要	23
(2)	主要生産・輸出国等の需給状況	
ア	中国	24
イ	インド	25
ウ	インドネシア	26
エ	タイ	26
オ	ベトナム	27
カ	フィリピン	27
キ	米国	28

II 油糧種子

1	2009/10年度の国際的な油糧種子需給の概要	29
	【参考】2009/10年度油糧種子需給予測の主な改訂	30
2	大豆	
(1)	国際的な大豆需給の概要	31
(2)	主要生産・輸出国等の需給状況	
ア	米国	32
イ	ブラジル	33
ウ	カナダ	33
エ	中国	34
オ	アルゼンチン	35
3	なたね	
(1)	国際的ななたね需給の概要	36
(2)	主要生産・輸出国等の需給状況	
ア	カナダ	37
イ	豪州	37
ウ	EU-27	38
エ	中国	38
オ	インド	39

III 今月のトピックス

○穀物輸出大国を目指すロシアが抱える問題	40
【参考】穀物等の国際価格の動向（グラフ）	42
【利用上の注意】	43

I 穀物

1 2009/10年度の国際的な穀物需給の概要

○2009/10年度の穀物需給（予測）のポイント

2009/10年度の穀物需給は、とうもろこしで生産量の増加が見込まれているものの、小麦、大麦、ソルガム、米は前年を下回ると見込まれる。

一方、消費量は、ソルガムを除き前年よりも増加すると見込まれ、とうもろこし、ソルガム、米では消費量が生産量を上回るものの、穀物全体としては、3年連続で消費量を上回る生産量が確保されると見込まれる。

このため、穀物全体の期末在庫量は積み増しが行われるが、期末在庫率は減少が見込まれる。

【生産量】

世界の穀物全体の生産量は、とうもろこしを除いて減少すると見込まれ、前年度より35.6百万トン減少（▲1.6%）し、2,194.3百万トンとなる見込みである。

品目別には、世界的に増産となった前年度と比較して、小麦については、市場価格の低下や経済の減退による面積の減少、大麦については単収の低下、米については、インドの降水不足による減産が見込まれている。一方、とうもろこしは米国等の増産から生産量が増加すると見込まれている。

【消費量】

世界の穀物全体の消費量は、堅調な食用、エタノール原料用の需要の増加などから、前年度より45.3百万トン増加（2.1%）し、2,190.0百万トンとなる見込みである。

品目別には、とうもろこしについては、米国でエタノール需要を中心とした増加、中国等で飼料用需要を中心とした増加が見込まれ、小麦については、食用需要を中心としてインド、ロシア等で増加が見込まれる。

【貿易量】

世界の穀物全体の貿易量は、前年度より11.4百万トン減少（▲4.1%）し、265.1百万トンとなる見込みである。

品目別には、とうもろこしについては、米国やブラジルの輸出量の増加が見込まれるものの、小麦については、生産量の減少に伴い、EU、ウクライナ、米国等で輸出量が減少すると見込まれている。

【期末在庫量】

世界の穀物全体の期末在庫量は、生産量が消費量を上回ると見込まれていることから前年度より4.3百万トン増加（1.0%）し、452.3百万トンとなる見込みである。また、穀物全体の期末在庫率は、期末在庫量が積み増しされるものの、20.7%と0.2ポイント減少する見込みである。

品目別には、小麦、大麦については生産量が消費量を上回り、期末在庫量が積み増しされるが、とうもろこし、ソルガム、米については生産量が消費量を下回り、期末在庫量が取り崩されると見込まれている。

表－1 世界の穀物需給

(単位:百万トン)

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10			
			予 測 値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	穀物計	2121.0	2229.9	2194.3	7.0	▲ 1.6
	小麦	611.0	682.3	668.1	4.4	▲ 2.1
	粗粒穀物 (とうもろこし)	1,076.6	1,101.9	1,092.5	2.5	▲ 0.9
	(大 麦)	791.9	791.3	792.5	▲ 1.5	0.2
	(ソルガム)	133.0	153.9	147.2	4.4	▲ 4.3
	米	65.6	64.2	63.9	1.5	▲ 0.5
消 費 量	穀物計	2100.2	2144.7	2190.0	6.7	2.1
	小麦	616.5	637.7	648.2	2.0	1.6
	粗粒穀物 (とうもろこし)	1,055.6	1,071.6	1,103.4	4.1	3.0
	(大 麦)	770.7	774.7	803.1	3.5	3.7
	(ソルガム)	134.5	143.3	147.1	0.8	2.6
	米	65.4	64.2	64.2	1.8	▲ 0.1
う ち、 飼 料 用	穀物計	751.5	754.7	766.0	4.5	1.5
	小麦	96.1	112.8	110.7	1.0	▲ 1.8
	粗粒穀物 (とうもろこし)	655.3	641.9	655.3	3.5	2.1
	(大 麦)	496.4	477.1	488.9	2.9	2.5
	(ソルガム)	92.3	99.5	102.2	0.8	2.8
	米	29.4	26.1	24.8	▲ 0.7	▲ 5.1
貿 易 量	穀物計	275.5	276.5	265.1	0.9	▲ 4.1
	小麦	117.2	140.7	124.8	1.8	▲ 11.3
	粗粒穀物 (とうもろこし)	127.2	108.0	110.5	▲ 1.4	2.3
	(大 麦)	98.6	79.5	84.4	▲ 1.3	6.2
	(ソルガム)	15.5	20.0	17.6	▲ 0.3	▲ 12.4
	米	9.8	5.7	5.9	0.2	3.9
期 末 在 庫 量	穀物計	362.7	448.0	452.3	1.7	1.0
	小麦	122.1	166.8	186.7	0.1	12.0
	粗粒穀物 (とうもろこし)	160.2	190.5	179.7	0.6	▲ 5.7
	(大 麦)	130.3	146.8	136.2	▲ 2.9	▲ 7.2
	(ソルガム)	19.7	30.4	30.5	3.3	0.5
	米	4.6	4.6	4.3	▲ 0.0	▲ 5.3
期 末 在 庫 率	穀物計	17.3%	20.9%	20.7%	0.0	▲ 0.2
	小麦	19.8%	26.2%	28.8%	▲ 0.1	2.7
	粗粒穀物 (とうもろこし)	15.2%	17.8%	16.3%	▲ 0.0	▲ 1.5
	(大 麦)	16.9%	19.0%	17.0%	▲ 0.4	▲ 2.0
	(ソルガム)	14.7%	21.2%	20.7%	2.2	▲ 0.4
	米	7.0%	7.1%	6.8%	▲ 0.3	▲ 0.4
		18.8%	20.8%	19.6%	0.2	▲ 1.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、 「PS &D」

注：期末在庫率の「前月予測からの変更」と「対前年度増減率」は、前月予測及び前年度とのポイント差である。

【参考】2009/10年度穀物需給予測の主な改訂（主要品目の前月予測と今月予測の差）

前月の予測からの改訂は、生産量はとうもろこしで下方修正されたものの、小麦、大麦、ソルガム、米で上方修正され、穀物全体では7.0百万トン上方修正されている。消費量は小麦、とうもろこし、大麦、ソルガム、米の全てで上方修正され、穀物全体では6.7百万トン上方修正されている。また、期末在庫量はとうもろこし、ソルガムが下方修正されたものの、小麦、大麦、米が上方修正され、穀物全体では1.7百万トン上方修正された。

○ 小麦

(単位:百万トン)

	生産量	消費量	うち、 飼料用	貿易量		期 末 在庫量
				輸出量	輸入量	
世界計	4.4	2.0	1.0	1.8	...	0.1
米国	1.0	▲ 1.2	▲ 1.2	▲ 1.4	-	3.3
カナダ	2.0	0.1	▲ 0.3	1.5	0.1	0.5
豪州	0.5	-	-	-	-	0.5
EU-27	0.6	1.0	1.0	-	-	▲ 0.8
中国	-	1.0	1.0	-	-	▲ 1.0
インド	-	-	-	-	-	0.1
ロシア	1.0	0.5	0.5	-	-	0.5
アルゼンチン	-	-	-	-	-	0.0
ウクライナ	-	▲ 0.5	▲ 0.5	0.5	-	▲ 0.0

○ とうもろこし

(単位:百万トン)

	生産量	消費量	うち、 飼料用	貿易量		期 末 在庫量
				輸出量	輸入量	
世界計	▲ 1.5	3.5	2.9	▲ 1.3	...	▲ 2.9
米国	1.6	1.4	1.3	▲ 1.3	-	0.9
中国	▲ 5.0	1.0	1.0	-	-	▲ 6.0
アルゼンチン	-	-	-	-	-	▲ 0.2
ブラジル	-	0.5	0.5	-	-	0.5
EU-27	0.7	0.5	0.5	-	-	0.2

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、 「Grain: World Markets and Trade」、 「PS&D」

注: 期末在庫量の変更については、2008/09年度の需給データの改訂により、2009/10年度の期首在庫量が修正されたことに伴う場合もある。

○ 大麦

(単位:百万トン)

	生産量	消費量	うち、 飼料用	貿易量		期 末 在庫量
				輸出量	輸入量	
世界計	4.4	0.8	2.0	▲ 0.3	...	3.3
豪州	0.2	0.1	0.1	-	-	0.1
カナダ	0.3	0.1	0.1	-	-	0.2
米国	0.4	▲ 0.2	▲ 0.2	-	-	0.7
EU-27	0.7	-	-	▲ 0.5	-	1.1
ウクライナ	-	0.3	0.3	-	-	▲ 0.3
ロシア	2.0	0.5	0.4	0.2	-	1.3

○ ソルガム

(単位:百万トン)

	生産量	消費量	うち、 飼料用	貿易量		期 末 在庫量
				輸出量	輸入量	
世界計	1.5	1.8	▲ 0.7	0.2	...	▲ 0.0
米国	▲ 0.7	▲ 0.3	▲ 0.3	-	-	▲ 0.0
アルゼンチン	-	▲ 0.5	▲ 0.5	-	-	0.5
豪州	▲ 0.3	▲ 0.5	▲ 0.5	0.3	-	-
中国	-	0.4	0.0	▲ 0.1	-	▲ 0.5
インド	-	-	-	-	-	-

○ 米

(単位:百万トン)

	生産量	消費量	うち、 飼料用	貿易量		期 末 在庫量
				輸出量	輸入量	
世界計	0.1	0.5	...	0.5	...	1.0
中国	0.9	0.7	...	-	-	0.3
インド	-	-	...	-	-	-
インドネシア	-	▲ 0.3	...	-	-	0.8
タイ	-	-	...	-	-	-
ベトナム	-	-	...	0.5	-	0.2
フィリピン	▲ 0.2	-	...	-	-	0.1

2 小麦

(1) 国際的な小麦需給の概要

○2009/10年度の小麦需給（予測）のポイント

小麦の供給面では、世界的に増産となった前年度より収穫面積が減少することなどから、世界的な生産量の減少が見込まれている。

需要面では、堅調な食料用需要の増加が、飼料用需要の減少を上回り、世界の消費量は増加が見込まれている。

期末在庫量については、2年連続して生産量が消費量を上回ることから在庫の積み増しが行われ、期末在庫率も増加し、世界の小麦需給は緩和すると見込まれる。

【生産量】

生産量は、豊作であった前年度と比較して、市場価格の低下や経済の減退による影響から収穫面積が減少すること等から、インド、中国、豪州では増産となるものの、EU、米国、ロシア、カナダ等で減産となり、世界全体では前年度より14.2百万トン減少（▲2.1%）し、668.1百万トンとなる見込みである。なお、前月の予測からの改訂は、世界全体では、4.4百万トン上方修正されており、国別には、カナダ、ロシア、米国、EU、豪州で上方修正された。

【消費量】

消費量は、食料用需要を中心にインド、ロシア等で増加が見込まれ、世界全体では前年度より10.5百万トン増加（1.6%）し、648.2百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体では2.0百万トン上方修正されており、国別には、EU、中国、ロシアで上方修正、米国で下方修正された。

【貿易量】

世界全体の貿易量は、15.9百万トン減少（▲11.3%）し、124.8百万トンとなる見込みである。

国別には、輸出国では豪州等で増加するものの、EU、ウクライナ、米国、アルゼンチン、ロシアで輸出量の減少が見込まれている。一方、輸入国では、ブラジル、インドネシア、日本で輸入量の増加、モロッコ、エジプト、EU等で輸入量の減少が見込まれている。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で1.8百万トン下方修正されており、国別には、輸出国では、カナダ、ウクライナで上方修正、米国で下方修正され、輸入国では、ブラジルで上方修正、アルジェリアで下方修正された。

【期末在庫量】

期末在庫量は、2年連続で生産量が消費量を上回ることから、中国、米国、インド等で大きく積み増しされ、世界全体では前年度より19.9百万トン増加（12.0%）し、186.7万トンとなる見込みであり、期末在庫率も28.8%と増加する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で、0.1百万トン上方修正されており、国別には、米国、ロシア、カナダ、豪州等で上方修正、中国、EUで下方修正された。

表－1 世界の小麦需給

(単位:百万トン)

年度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	611.0	682.3	668.1	4.4	▲ 2.1
EU-27	120.4	151.3	139.1	0.6	▲ 8.1
中国	109.3	112.5	114.5	-	1.8
インド	75.8	78.6	80.6	-	2.5
ロシア	49.4	63.7	57.5	1.0	▲ 9.7
米国	55.8	68.0	60.4	1.0	▲ 11.2
カナダ	20.1	28.6	24.5	2.0	▲ 14.4
豪州	13.8	21.5	23.5	0.5	9.3
消費量	616.5	637.7	648.2	2.0	1.6
うち飼料用	96.1	112.8	110.7	1.0	▲ 1.8
EU-27	116.5	127.5	128.0	1.0	0.4
中国	106.0	102.5	102.0	1.0	▲ 0.5
インド	76.4	70.8	76.9	-	8.6
ロシア	37.7	38.9	40.2	0.5	3.3
米国	28.6	34.3	33.3	▲ 1.2	▲ 2.9
パキスタン	22.4	22.8	23.3	-	2.2
トルコ	16.8	16.9	17.3	-	2.4
貿易量	117.2	140.7	124.8	1.8	▲ 11.3
(輸出)					
米国	34.4	27.6	24.5	▲ 1.4	▲ 11.4
EU-27	12.3	25.4	20.0	-	▲ 21.2
カナダ	16.1	18.8	18.5	1.5	▲ 1.6
ロシア	12.6	18.4	16.5	-	▲ 10.3
豪州	7.5	14.0	15.5	-	10.7
ウクライナ	1.2	13.0	8.5	0.5	▲ 34.8
アルゼンチン	11.2	5.7	2.5	-	▲ 56.1
(輸入)					
エジプト	7.7	9.9	8.3	-	▲ 16.2
EU-27	6.9	7.7	6.5	-	▲ 16.0
ブラジル	6.7	6.0	6.5	1.0	8.3
インドネシア	5.2	5.4	5.5	-	1.4
日本	5.7	5.2	5.3	-	2.8
アルジェリア	5.9	6.4	5.3	▲ 0.4	▲ 16.7
モロッコ	4.2	3.8	1.8	-	▲ 52.1
期末在庫量	122.1	166.8	186.7	0.1	12.0
中国	39.0	48.7	60.0	▲ 1.0	23.2
EU-27	12.6	18.8	16.3	▲ 0.9	▲ 12.9
米国	8.3	17.9	23.5	3.3	31.6
インド	5.8	13.5	17.0	0.1	25.8
ロシア	1.8	8.4	9.4	0.5	11.9
カナダ	4.4	6.6	5.9	0.5	▲ 10.7
豪州	4.7	5.5	6.5	0.5	18.6
期末在庫率	19.8%	26.2%	28.8%	▲ 0.1	2.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」

(2) 小麦の主要生産・輸出国等の需給状況

ア 米国

【需給状況】

米国の生産量は、豊作であった前年度より収穫面積、単収とも減少するため、7.6百万トン減少（▲11.2%）し、60.4百万トンとなる見込みである。

消費量は、食料用需要の増加が飼料用需要の減少を下回ると見込まれることから前年度より1.0百万トン減少（▲2.9%）し、33.3百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の減少等から3.1百万トン減少（▲11.4%）し、24.5百万トンとなる見込みである。

この結果、前年度大幅に増加した期末在庫量は、さらに5.6百万トン増加（31.6%）し、23.5百万トンとなり、期末在庫率は40.7%（11.8ポイント増）となる見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は、2008/09年度の消費量が0.3百万トン上方修正されたため、2009/10年度の期首在庫量が0.3百万トン下方修正された。また、2009/10年度の実産量が、収穫面積は下方修正されたものの、単収が上方修正されたことから1.0百万トン上方修正され、飼料用需要の下方修正により消費量が1.2百万トン下方修正、輸出量が1.4百万トン下方修正された。この結果、期末在庫量は3.3百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の冬小麦の収穫は8月に終了した。作柄については、オクラホマ州、テキサス州等で生育期の1月から3月の干ばつにより、冬小麦の作柄に影響があったが、その他の地域については、良好であった。また、収穫面積は、前年度より2.0百万ヘクタール減少（▲12.9%）し、14.0百万ヘクタールとなっており、生産量は、前年度より9.4百万トン減少（▲18.5%）し、41.4百万トンとなった。

2009/10年度の春小麦については、雨がちな天候からノースダコタ州等で作付けが遅れたことから、9月末から10月始めにかけてようやく収穫が終了した。デュラムを含む収穫面積は、前年度より0.2百万ヘクタール減少（▲3.3%）し、6.3百万ヘクタールであったが、単収が前年度より良好であったため、生産量は前年度より1.8百万トン増加（10.3%）し、19.0百万トンと見込まれている。

2010/11年度の冬小麦の作付けは、終盤を迎えているが、進捗率は、主要生産州で69%と平年よりは9ポイント、前年より8ポイント遅れている。また、発芽率は48%で、平年より6ポイント、前年より8ポイント遅れている。

作柄については、10月25日現在で優良～良が62%と前年度の同時期（65%）を下回っているが、前年度最終（47%）よりは上回っている。

我が国の輸入先国シェア 1位（2008年数量ベース63.3%）
世界の生産量シェア 4位（2009/10年度 9.0%）
輸出量シェア 1位（2009/10年度 19.6%）

表-2 米国の小麦需給（市場年度：6月～翌年5月）

年度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	55.8	68.0	60.4	1.0	▲11.2
消費量	28.6	34.3	33.3	▲1.2	▲2.9
うち飼料用	0.4	7.1	5.2	▲1.2	▲26.9
輸出量	34.4	27.6	24.5	▲1.4	▲11.4
輸入量	3.1	3.5	3.0	-	▲13.6
期末在庫量	8.3	17.9	23.5	3.3	31.6
期末在庫率	13.2%	28.9%	40.7%	7.2	11.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	20.64	22.54	20.26	▲0.15	▲10.1
単収(t/ha)	2.70	3.02	2.98	0.07	▲1.3

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」

○ 米國小麦の生育進捗及び作柄

【生育進捗状況（2010/11年度冬小麦：主要18州）
（10月25日現在）

作付率 76%（平年差：▲19p、前年差：▲16p）
発芽率 59%（平年差：▲7p、前年差：▲7p）

【作柄（2009/10年度春小麦：主要6州）（2010/11年度冬小麦：主要18州）
（春小麦 9月6日現在、冬小麦 10月25日現在）

		単位：%				
		優良	良	普通	不良	極不良
春小麦 (2009/9/06)	2009/10	16	58	19	5	2
	前年度同時期	-	-	-	-	-
	前年度最終	14	41	28	12	5
冬小麦 (2009/10/25)	2010/11	9	53	33	4	1
	前年度同時期	12	53	30	4	1
	前年度最終	11	36	26	14	13

注：優良-Excellent、良-Good、普通-Fair、不良-Poor、極不良-Very Poor

資料：USDA 「Crop Progress」

注1：生育進捗状況の（ ）内は同時期の平年値（過去5年）及び前年同時期との比較である。

注2：春小麦の9月6日の公表値に前年度同時期のデータは含まれていない。

イ カナダ

【需給状況】

カナダの生産量は、収穫面積は前年度より減少し、豊作であった前年度と比べて産地の乾燥等により単収が減少することから、4.1百万トン減少（▲14.4%）し、24.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用需要の減少から前年度より0.9百万トン減少（▲11.6%）し、7.1百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より0.3百万トン減少（▲1.6%）し、18.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、生産量が減少するため、前年度より0.7百万トン減少（▲10.7%）し、5.9百万トンとなり、期末在庫率は、22.9%（1.6ポイント減）となる見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は、産地の乾燥等による影響が当初より緩和されたことによる単収の上方修正から生産量が2.0百万トン上方修正された。また、消費量、輸出量、輸入量がそれぞれ0.1百万トン、1.5百万トン、0.1百万トン上方修正された。この結果、期末在庫量は0.5百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の小麦の収穫は、平原三州で10月中旬現在、9割程度終了した。生育期の乾燥等はあったものの、収穫期の天候が良好であったため、単収が改善される見込みである。

ウ 豪州

【需給状況】

豪州の生産量は、前年度に引き続いて増産となり、2.0百万トン増加（9.3%）し、23.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用需要の増加等から前年度より0.3百万トン増加（3.7%）し、7.1百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の増加から1.5百万トン増加（10.7%）し、15.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、1.1百万トン増加（18.7%）し、6.6百万トンと積み増しされ、期末在庫率は29.0%（2.5ポイント増）となる見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は、豪州西部および南東部で生育に適した降雨があったことから、生産量が0.5百万トン上方修正され、期末在庫量が0.5百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の小麦の生育は、クィーンズランド州、ニューサウスウェールズ州の一部でわずかに9月上旬に降雨があったものの、降雨が少ない天候が続いている。一方、豪州西部および南東部ではおおむね順調である。エルニーニョの影響の懸念もあり、天候に注視が必要である。

我が国の輸入先国シェア 2位（2008年数量ベース20.4%）
世界の生産量シェア 8位（2009/10年度 3.7%）
輸出量シェア 3位（2009/10年度 14.8%）

表-3 カナダの小麦需給（市場年度：8月～翌年7月）

年度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(AAFC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	20.1	28.6	24.5 (24.6)	2.0	▲ 14.4
消費量	6.8	8.0	7.1 (8.2)	0.1	▲ 11.6
うち飼料用	2.2	3.2	2.2 (3.3)	▲ 0.3	▲ 31.5
輸出量	16.1	18.8	18.5 (16.9)	1.5	▲ 1.6
輸入量	0.4	0.4	0.4 (0.0)	0.1	5.3
期末在庫量	4.4	6.6	5.9 (6.1)	0.5	▲ 10.7
期末在庫率	19.2%	24.4%	22.9% (24.3%)	0.6	▲ 1.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	8.64	10.03	9.80 (9.82)	-	▲ 2.3
単収(t/ha)	2.32	2.85	2.50 (2.50)	0.20	▲ 12.3

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
AAFC 「Grain and Oilseeds Outlook (8 October 2009)」

我が国の輸入先国シェア 3位（2008年数量ベース16.1%）
世界の生産量シェア 7位（2009/10年度 3.5%）
輸出量シェア 5位（2009/10年度 12.4%）

表-4 豪州の小麦需給（市場年度：10月～翌年9月）

年度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(ABARE)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	13.8	21.5	23.5 (22.7)	0.5	9.3
消費量	6.2	6.8	7.1 (7.0)	-	3.7
うち飼料用	3.5	3.8	4.0 (3.9)	-	6.7
輸出量	7.5	14.0	15.5 (15.5)	-	10.7
輸入量	0.1	0.1	0.1 (…)	-	▲ 38.5
期末在庫量	4.7	5.5	6.6 (…)	0.5	18.7
期末在庫率	34.3%	26.5%	29.0% (…)	2.3	2.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)※	12.70	13.50	13.50 (13.79)	-	0.0
単収(t/ha)	1.09	1.59	1.74 (1.65)	0.04	9.4

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
ABARE 「Australian crop report (15 September 2009)」(※ABAREは作付面積)

エ EU-27

【需給状況】

EUの生産量は、過去最高の生産量であった前年度と比較して、東欧やスペインの乾燥により、単収が低下することや、油糧種子への転換等から収穫面積が減少すると見られ、前年度より12.2百万トン減少（▲8.1%）し、139.1百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.5百万トン増加（0.4%）し、128.0百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の減少等から5.4百万トン減少（▲21.2%）し、20.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は2.4百万トン減少（▲12.8%）し、16.4百万トンとなり、期末在庫率も11.0%（1.2ポイント減）となる見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は、2008/09年度の輸入量、輸出量がそれぞれ0.4百万トン、0.9百万トン上方修正されたため、2009/10年度の期首在庫量が0.5百万トン下方修正された。また、2009/10年度の単収が上方修正されたことにより生産量が0.6百万トン上方修正され、飼料用需要の上方修正により消費量が1.0百万トン上方修正された。この結果、期末在庫量は0.8百万トン下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の小麦の収穫は終了した。東欧では生育期の乾燥により減産となるものの、主産国のフランスでは好天に恵まれ、単収が向上し生産量が増加する見込みである。

2010/11年度の冬小麦の作付けが行われた。土壌水分の不足等が懸念されている。

【貿易情報】

穀物の輸入関税の課税を2008年1月より停止していたが、2008年10月に再度導入した。

オ 中国

【需給状況】

中国の生産量は、単収及び収穫面積がわずかに増加することから、前年度より2.0百万トン増加（1.8%）し、114.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.5百万トン減少（▲0.5%）し、102.0百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より0.8百万トン増加（108.3%）し、1.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は11.3百万トン増加（23.2%）し60.0百万トンとなり、期末在庫率も58.0%（10.8ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は、飼料用需要の上方修正により消費量が1.0百万トン上方修正された結果、期末在庫量が1.0百万トン下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2010/11年度の小麦の作付けは10月中旬現在、7割程度進捗している。

【貿易情報】

2007年12月に輸出還付を取り消し、2008年1月から輸出税を賦課していたが、輸出税については2009年7月1日に撤廃された。なお、以前より輸出割当許可証管理を行っている。

世界の生産量シェア1位（2009/10年度 20.8%）
輸出量シェア2位（2009/10年度 16.0%）

表－5 EU-27の小麦需給（市場年度：7月～翌年6月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	120.4	151.3	139.1 (139.0)	0.6	▲ 8.1
消費量	116.5	127.5	128.0 (126.3)	1.0	0.4
うち飼料用	52.4	61.0	60.0 (54.0)	1.0	▲ 1.6
輸 出 量	12.3	25.4	20.0 (19.0)	-	▲ 21.2
輸 入 量	6.9	7.7	6.5 (6.0)	-	▲ 16.0
期末在庫量	12.6	18.8	16.4 (16.0)	▲ 0.8	▲ 12.8
期末在庫率	9.8%	12.3%	11.0% (0.1)	▲ 0.7	▲ 1.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	24.77	26.69	25.60 (…)	-	▲ 4.1
単収(t/ha)	4.86	5.67	5.43 (…)	0.02	▲ 4.2

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain : World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
IGC 「Grain Market Report (24 September 2009)」

（世界の生産量シェア2位（2009/10年度 17.1%））

表－6 中国の小麦需給（市場年度：7月～翌年6月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	109.3	112.5	114.5 (114.0)	-	1.8
消費量	106.0	102.5	102.0 (…)	1.0	▲ 0.5
うち飼料用	8.0	5.0	5.0 (…)	1.0	0.0
輸 出 量	2.8	0.7	1.5 (0.2)	-	108.3
輸 入 量	0.1	0.5	0.3 (0.2)	-	▲ 37.5
期末在庫量	39.0	48.7	60.0 (…)	▲ 1.0	23.2
期末在庫率	35.8%	47.2%	58.0% (…)	▲ 1.5	10.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	23.72	24.00	24.30 (…)	-	1.3
単収(t/ha)	4.61	4.69	4.71 (…)	-	0.4

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain : World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
IGC 「Grain Market Report (24 September 2009)」

カ インド

【需給状況】

インドの生産量は、過去最高の生産量であった前年度より単収が増加したため、2.0百万トン増加（2.5%）し、過去最高の80.6百万トンとなる見込みである。

消費量は、モンスーン到来の遅れによる米の減産見通しから小麦の需要が増加すると見込まれるため前年度より6.1百万トン増加（8.6%）し、76.9百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度並の、0.2百万トンとなる見込みである。

輸入量は、前年度と同じ0.0トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、3.5百万トン増加（25.8%）し、17.0百万トンとなり、期末在庫率も22.1%（3.0ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は、2008/09年度の輸出量が0.1百万トン下方修正されたため2009/10年度の期首在庫量が0.1百万トン上方修正された。この結果、2009/10年度の期末在庫量が0.1百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2010/11年度の小麦の作付けは10月に開始されるが、土壌水分の不足が懸念されており、天候に注視が必要である。

【貿易情報】

2007年9月から輸出が禁止されたが、2008年9月に種子用の小麦に限り輸出禁止が解除された。なお、2009年7月3日に輸出禁止が一旦条件付きで解除されたが、米の減産見通しから7月13日に加工品を除き輸出が再度禁止された。

キ ロシア

【需給状況】

ロシアの生産量は、豊作であった前年度と比較して収穫面積は増加するものの一部地域の干ばつ等により単収が減少することから、前年度より6.2百万トン減少（▲9.7%）し、57.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より1.3百万トン増加（3.3%）し、40.2百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より1.9百万トン（▲10.3%）減少し、16.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、1.0百万トン増加（11.9%）し、9.4百万トンとなり、期末在庫率も16.6%（1.9ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は、シベリア地域の単収の向上により、生産量が1.0百万トン上方修正され、消費量が0.5百万トン上方修正された。この結果、期末在庫量は、0.5百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の小麦は、10月中旬におおむね終了した。ロシア農業省の発表では、10月20日時点の小麦の収穫量は、約62.0百万トンで豊作であった前年同時期の94%である。シベリア地域では作柄が良好であったが、南ウラル、沿ボルガ地方の一部地域で干ばつの影響等から、豊作であった前年度より単収が減少する見込みである。2010/11年度の冬小麦の作付けが行われており、10月中にほぼ終了する見通しである。

【貿易情報】

2008年7月1日まで、輸出税が賦課されていた。

（世界の生産量シェア3位（2009/10年度 12.1%））

表－7 インドの小麦需給（市場年度：4月～翌年3月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10			
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	75.8	78.6	80.6 (80.6)	-	2.5	
消費量	76.4	70.8	76.9 (…)	-	8.6	
うち飼料用	0.2	0.1	0.1 (…)	-	0.0	
輸 出 量	0.1	0.1	0.2 (1.0)	-	100.0	
輸 入 量	2.0	0.0	0.0 (T)	-	▲ 100.0	
期末在庫量	5.8	13.5	17.0 (…)	0.1	25.8	
期末在庫率	7.6%	19.1%	22.1% (…)	0.1	3.0	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	28.00	28.15	27.80 (…)	-	▲ 1.2	
単収(t/ha)	2.71	2.79	2.90 (…)	-	3.9	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
IGC「Grain Market Report (24 September 2009)」

（世界の生産量シェア5位（2009/10年度 8.6%）

輸出量シェア4位（2009/10年度 13.2%）

表－8 ロシアの小麦需給（市場年度：7月～翌年6月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10			
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	49.4	63.7	57.5 (60.0)	1.0	▲ 9.7	
消費量	37.7	38.9	40.2 (39.2)	0.5	3.3	
うち飼料用	15.1	16.2	17.5 (14.0)	0.5	8.0	
輸 出 量	12.6	18.4	16.5 (19.0)	-	▲ 10.3	
輸 入 量	0.4	0.2	0.2 (0.2)	-	0.0	
期末在庫量	1.8	8.4	9.4 (10.5)	0.5	11.9	
期末在庫率	3.6%	14.7%	16.6% (18.0%)	0.7	1.9	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	24.40	26.65	28.75 (…)	-	7.9	
単収(t/ha)	2.02	2.39	2.00 (…)	0.03	▲ 16.3	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
IGC「Grain Market Report (24 September 2009)」

ク アルゼンチン

【需給状況】

アルゼンチンの生産量は、干ばつにより収穫面積は減少するものの、単収が平年並に回復するとの予測から、前年度より0.4百万トン減少（▲4.8%）し、8.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.1百万トン増加（2.0%）し、5.2百万トンとなる見込みである。

輸出量は、供給量の減少などから3.2百万トン減少（▲56.1%）し、2.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は0.3百万トン増加（80.5%）し0.7百万トンとなり、期末在庫率も9.6%（5.8ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は、2007/08年度の輸出量がわずかに下方修正されたため、2009/10年度の期首在庫量がわずかに上方修正された。その結果、期末在庫量はわずかに上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の小麦については、生育期を迎えているが、生育に適した降雨があった。引き続き、生育期の天候に注視する必要がある。

【貿易情報】

2009年6月に、輸出業者が生産者から政府公示価格で買い上げることを条件として申告から365日以内に出荷、船積が可能となった。

また、農家は政府の農業政策に抗議しており、アルゼンチンの上院は、8月20日に、大統領が穀物輸出税を設定する権限を1年間延長することを承認したことから、3月に引き続き、8月末に再度ストライキを行った。

なお、9月10日には、政府から、小麦650万トン国内向けに確保し、超過分については、輸出を自由化することと、年産800トン以下の生産者に対して、輸出税を還付する旨の発表が行われた。今後の情勢に注視する必要がある。

ケ ウクライナ

【需給状況】

ウクライナの実産量は、豊作であった前年度と比較して、4～5月の乾燥により単収が低下し、収穫面積が減少すること等から、前年度より5.9百万トン減少（▲22.8%）し、20.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より食料用需要の増加から0.2百万トン増加（1.7%）し、12.1百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の減少などから4.5百万トン減少（▲34.8%）し、8.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は前年度より0.5百万トン（▲16.1%）減少し、2.6百万トンとなり、期末在庫率は12.7%（0.2ポイント増）となる見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は、消費量が飼料用需要の下方修正により0.5百万トン下方修正され、輸出量が0.5百万トン上方修正された。この結果、期末在庫量はわずかに下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の小麦は、8月中旬におおむね収穫が終了した。

2010/11年度の冬小麦の作付けが行なわれている。

【貿易情報】

2007年11月から輸出量の枠が設定されていたが、2008年5月に撤廃された。

(世界の輸出量シェア8位 (2009/10年度 2.0%))

表-9 アルゼンチンの小麦需給 (市場年度: 12月～翌年11月)

(単位: 百万トン)

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10			
			予測値 (IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率 (%)	
生産量	18.0	8.4	8.0 (7.8)	-	▲ 4.8	
消費量	5.1	5.1	5.2 (4.9)	-	2.0	
うち飼料用	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	0.0	
輸 出 量	11.2	5.7	2.5 (2.9)	-	▲ 56.1	
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	...	
期末在庫量	2.8	0.4	0.7 (0.4)	0.0	80.5	
期末在庫率	17.0%	3.8%	9.6% (4.8%)	0.1	5.8	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	6.00	4.24	2.85 (2.80)	-	▲ 32.8	
単収(t/ha)	3.00	1.98	2.81 (2.79)	-	41.9	

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
IGC 「Grain Market Report (24 September 2009)」

(世界の輸出量シェア6位 (2008/09年度 6.8%))

表-10 ウクライナの小麦需給 (市場年度: 7月～翌年6月)

(単位: 百万トン)

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10			
			予測値 (IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率 (%)	
生産量	13.9	25.9	20.0 (20.0)	-	▲ 22.8	
消費量	12.3	11.9	12.1 (12.9)	▲ 0.5	1.7	
うち飼料用	3.0	2.9	2.8 (2.8)	▲ 0.5	▲ 3.4	
輸 出 量	1.2	13.0	8.5 (7.0)	0.5	▲ 34.8	
輸 入 量	0.3	0.1	0.1 (0.1)	-	42.9	
期末在庫量	2.1	3.1	2.6 (1.7)	▲ 0.0	▲ 16.1	
期末在庫率	15.3%	12.5%	12.7% (8.6%)	▲ 0.1	0.2	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	5.95	7.05	6.85 (…)	-	▲ 2.8	
単収(t/ha)	2.34	3.67	2.92 (…)	-	▲ 20.4	

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
IGC 「Grain Market Report (24 September 2009)」

3 とうもろこし

(1) 国際的なとうもろこし需給の概要

○2009/10年度のとうもろこし需給（予測）のポイント

とうもろこしの供給面では、中国、EU等で減少するものの、米国、アルゼンチン、ブラジル等で増加することが見込まれることから世界の生産量はわずかに増加が見込まれている。

需要面では、米国でエタノール原料用需要を中心とした増加、中国等で飼料用需要を中心とした増加が見込まれ、世界の消費量は増加が見込まれている。

期末在庫量については、生産量が消費量を下回ることから在庫が取り崩され、期末在庫率も低下し、需給は引き締まると見込まれている。

【生産量】

生産量は、前年度豊作であった中国、EU等で減少するものの、米国、アルゼンチン、ブラジル等で増加が見込まれ、世界全体では前年度より1.2百万トン増加（0.2%）し、792.5百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で1.5百万トン下方修正されており、国別には米国、EUで単収の増加等から上方修正され、中国で干ばつによる単収の減少のため下方修正された。

【消費量】

消費量は、EU等で飼料用需要が減少するものの、米国で飼料用需要に加えエタノール原料用需要を中心とした増加、中国等で飼料用需要を中心とした増加が見込まれ、世界全体では前年度より28.4百万トン増加（3.7%）し、803.1百万トンとなる見込みである。なお、世界全体の飼料用需要は、EUで減少するものの、中国、米国等では増加することから世界全体では増加が見込まれている。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で上方修正されており、国別には米国、中国、EUで飼料用需要の上方修正等から上方修正された。

【貿易量】

世界全体の貿易量（輸出量）は、前年度より4.9百万トン増加（6.2%）し、84.4百万トンとなる見込みである。

国別には、輸出国では貿易量の約6割を占める米国や、ブラジルで輸出量の増加が、ウクライナや南アフリカ等で減少が見込まれている。一方、輸入国では、メキシコ、韓国等で輸入量の増加が見込まれている。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で1.3百万トン下方修正されており、国別には輸出国では、米国の輸出量が下方修正され、輸入国では、コロンビアが上方修正された。

【期末在庫量】

期末在庫量は、生産量が消費量を下回ることから、中国等で在庫が取り崩され、世界全体では前年度より10.6百万トン減少（▲7.2%）し、136.2百万トンとなる見込みであり、期末在庫率も17.0%（2.0ポイント減）に低下する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で2.9百万トン下方修正されており、国別には米国、南アフリカ、ブラジル等で上方修正され、中国、メキシコで下方修正された。

表－1 世界のとうもろこし需給

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10 (単位:百万トン)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	791.9	791.3	792.5	▲ 1.5	0.2
米国	331.2	307.4	330.7	1.6	7.6
中国	152.3	165.9	155.0	▲ 5.0	▲ 6.6
EU-27	47.6	62.7	56.6	0.7	▲ 9.8
ブラジル	58.6	51.0	52.0	-	2.0
メキシコ	23.6	25.0	22.5	-	▲ 10.0
インド	19.0	18.5	18.5	-	0.1
アルゼンチン	22.0	12.6	14.0	-	11.1
消費量	770.7	774.7	803.1	3.5	3.7
うち飼料用	496.4	477.1	488.9	2.9	2.5
米国	261.6	259.3	276.4	1.4	6.6
中国	149.0	152.0	159.0	1.0	4.6
EU-27	63.9	61.0	59.8	0.5	▲ 2.0
ブラジル	42.5	44.5	45.5	0.5	2.2
メキシコ	32.0	32.6	32.7	0.5	0.3
インド	14.2	17.6	17.4	-	▲ 1.1
日本	16.6	16.4	16.3	-	▲ 0.6
貿易量	98.6	79.5	84.4	▲ 1.3	6.2
(輸出)					
米国	61.9	47.2	54.6	▲ 1.3	15.7
ブラジル	7.8	7.5	9.0	-	20.0
アルゼンチン	14.8	7.5	8.0	-	6.7
ウクライナ	2.1	5.5	3.0	-	▲ 45.5
南アフリカ	2.2	2.5	1.5	-	▲ 40.0
パラグアイ	1.1	1.2	1.0	-	▲ 16.7
インド	4.5	0.6	1.0	-	66.7
(輸入)					
日本	16.6	16.5	16.3	-	▲ 1.2
メキシコ	9.6	7.4	9.0	-	21.6
韓国	9.3	7.0	7.5	-	7.1
エジプト	4.2	4.2	4.2	-	0.0
台湾	4.5	4.4	4.6	-	4.5
コロンビア	3.3	3.2	3.3	0.4	3.1
EU-27	14.0	2.5	2.5	-	0.0
期末在庫量	130.3	146.8	136.2	▲ 2.9	▲ 7.2
中国	39.4	53.1	48.6	▲ 6.0	▲ 8.4
米国	41.3	42.5	42.5	0.9	▲ 0.1
ブラジル	12.6	12.4	10.4	0.5	▲ 16.2
EU-27	4.5	6.9	4.7	0.2	▲ 32.3
メキシコ	4.1	3.8	2.6	▲ 0.5	▲ 32.6
南アフリカ	3.5	4.2	3.4	0.8	▲ 18.6
期末在庫率	16.9%	19.0%	17.0%	▲ 0.4	▲ 2.0

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」
「World Agricultural Production」

(2) とうもろこしの主要生産・輸出国等の需給状況

ア 米国

【需給状況】

米国の生産量は、中西部東域の作付けが遅れたものの、6月以降、生育に適した天候で推移したことにより単収の見込みが上方修正され、史上最高の10.30トン/ヘクタールとなることから、前年度より23.3百万トン増加(7.6%)し、史上2番目の330.7百万トンとなる見込みである。

消費量は、豊作見通しによるとうもろこしの供給量の増加から飼料用需要の増加が見込まれ、再生可能燃料基準(RFS)によるバイオ燃料の義務付け使用量の増加や、ガソリン価格の上昇によるエタノール需要増を受けたガソリンへのブレンド意欲の向上などを反映してエタノール原料用需要の増加も見込まれることから、前年度より17.1百万トン増加(6.6%)し、276.4百万トンとなる見込みである。

輸出量は、安価な飼料用小麦の世界供給量が減少し、世界のとうもろこしの飼料用需要やそれに伴う輸入が回復すると見込まれることから、前年度より7.4百万トン増加(15.7%)し、54.6百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、生産量が消費量と輸出量の計と均衡することから前年度並の42.5百万トンとなり、期末在庫率は、12.8%(1.0ポイント減)と低下する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、2008/09年度については、輸出量が0.2百万トン上方修正、消費量が0.3百万トン上方修正された結果、2009/10年度の期首在庫量が0.5百万トン下方修正された。また、2009/10年度については、収穫面積は下方修正されたものの、単収の上方修正から、生産量が1.6百万トン上方修正された。消費量は、とうもろこしの生産増と価格の低下により、飼料用需要が上方修正されたこと等から1.4百万トン上方修正され、輸出量が1.3百万トン下方修正された。この結果、期末在庫量が0.9百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

米国のとうもろこしの主要18州の生育進捗は10月25日現在、成熟率は90%で平年より9ポイント、前年より6ポイント遅れとなっている。また、収穫率は20%で平年より38ポイント、前年より17ポイント遅れている。10月に入り、中西部において低温で雨がちな天候となり収穫が遅れている。収穫遅れに伴う品質低下の懸念がある。

作柄については、10月25日現在で優良～良が69%と、前年度の同時期(64%)及び最終(64%)を上回っている。

我が国の輸入先国シェア1位(2008年数量ベース 98.9%)
世界の生産量シェア 1位(2009/10年度 41.7%)
輸出量シェア 1位(2009/10年度 64.7%)

表-2 米国のとうもろこし需給(市場年度:9月～翌年8月)

年度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	331.2	307.4	330.7	1.6	7.6
消費量	261.6	259.3	276.4	1.4	6.6
うち飼料用	150.2	132.9	137.2	1.3	3.2
エタノール用	77.4	94.0	106.7	-	13.5
輸出量	61.9	47.2	54.6	▲1.3	15.7
輸入量	0.5	0.4	0.3	-	▲30.6
期末在庫量	41.3	42.5	42.5	0.9	▲0.1
期末在庫率	12.8%	13.9%	12.8%	0.3	▲1.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	35.01	31.83	32.09	▲0.29	0.8
単収(t/ha)	9.46	9.66	10.30	0.14	6.6

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain:World Markets and Trade」
「World Agricultural Production」

○ 米国とうもろこしの生育進捗状況及び作柄(10月25日現在)
〔生育進捗状況〕

成熟率 90%(平年差:▲9p、前年差:▲6p)
収穫率 20%(平年差:▲38p、前年差:▲17p)

〔作柄〕

		単位:%				
		優良	良	普通	不良	極不良
とうもろこし	2009/10	18	51	22	6	3
	前年度同時期	17	47	25	8	3
	前年度最終	17	47	25	8	3

注:優良-Excellent、良-Good、普通-Fair、不良-Poor、極不良-Very Poor

資料:USDA「Crop Progress」

注:生育進捗状況の()内は前年同時期及び同時期の平年値(過去5年)との比較である。

イ 中国

【需給状況】

中国の生産量は、収穫面積は増加するものの、前年度の記録的な豊作に比べ東北地方の干ばつ等から単収は低下すると予想されることから前年度より10.9百万トン減少（▲6.6%）し、155.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、食肉需要が堅調なことから飼料用需要を中心に前年度より7.0百万トン増加（4.6%）し、159.0百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より0.2百万トン増加（100.0%）し、0.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、前年度より4.5百万トン減少（▲8.4%）し、48.6百万トンとなり、期末在庫率は30.5%（4.4ポイント減）と低下する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、収穫面積は上方修正されたものの、東北地方の干ばつ等により単収が下方修正されたことから、生産量が5.0百万トン下方修正され、期末在庫量も6.0百万トン下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

中国のとうもろこしは、主要産地の東北地方の吉林省等で5月以降、雨不足に加えて、高温の影響などで深刻な干ばつが発生した。さらに6月から7月前半にかけて過度の降雨と低温の影響があり生育が遅れ、7月後半から8月中旬にかけての乾燥による被害を受けた。主産地の東北地方では、10月中旬に収穫を終了する見通しであるが、特に主産地の吉林省では、7月後半から8月の受粉期の干ばつの影響が大きく、大幅な単収の低下による生産量の減少が見込まれる。

【貿易情報等】

中国については、2007年12月に増値税の輸出還付を取り消し、2008年1月から輸出税を課していたが、12月1日からとうもろこしの輸出税は撤廃されている。

なお、2008年度は、豊作により新穀が市場に大量に出回ったことから、中国政府は4度の買上げ（計40.0百万トン計画）を行い、4月末までに備蓄を終了した。なお、備蓄については7月下旬から放出を開始しており、10月20日までに約34.8百万トンの競売が行われ、約12.8百万トンが落札された。なお、とうもろこしの入札に参加するスターチやエタノールの加工業者に対して政府から補助金が交付されている。

（世界の生産量シェア 2位（2009/10年度 19.6%））

表-3 中国のとうもろこし需給（市場年度：10月～翌年9月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	152.3	165.9	155.0 (157.0)	▲ 5.0	▲ 6.6
消費量	149.0	152.0	159.0 (160.0)	1.0	4.6
うち飼料用	105.0	110.0	116.0 (110.0)	1.0	5.5
輸 出 量	0.6	0.3	0.5 (0.5)	-	100.0
輸 入 量	0.0	0.1	0.1 (0.2)	-	0.0
期末在庫量	39.4	53.1	48.6 (56.4)	▲ 6.0	▲ 8.4
期末在庫率	26.3%	34.9%	30.5% (35.1%)	▲ 4.0	▲ 4.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	29.48	29.80	30.00 (…)	0.50	0.7
単収(t/ha)	5.17	5.57	5.17 (…)	▲ 0.25	▲ 7.2

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」、
IGC 「Grain Market Report (24 September 2009)」

ウ アルゼンチン

【需給状況】

アルゼンチンの生産量は、収穫面積は減少するものの、前年度に主要生産地域で干ばつの影響を受け低下した単収が回復すると見込まれることから、前年度より1.4百万トン増加（11.1%）し、14.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用需要の減少に伴い前年度より0.2百万トン減少（▲3.3%）し、5.9百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の増加などから前年度より0.5百万トン増加（6.7%）し、8.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、前年度より0.1百万トン増加（11.7%）し、1.2百万トンとなり、期末在庫率は前年度より0.8ポイント上昇し8.9%となる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は2008/09年度の輸出量が0.5百万トン上方修正、消費量が0.3百万トン下方修正されたため、2009/10年度の期首在庫量が、0.2百万トン下方修正された。この結果、期末在庫量が0.2百万トン下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の作付けが開始された。適度の降雨があったため、作付けが進捗し、10月21日現在で作付けの進捗は59.2%となっている。大豆と比べ収益性が劣るため、農家の作付意欲は低い。今後の生育期の天候に注視が必要である。

【貿易情報】

2009年6月には輸出業者が、生産者から政府公示価格での買い上げること等を条件として申告から365日以内に出荷、船積が可能となった。

また、農家は政府の農業政策に抗議しており、アルゼンチンの上院は、8月20日に、大統領が穀物輸出税を設定する権限を1年間延長することを承認したことから、3月に引き続き8月末に再度ストライキを行った。

なお、9月10日には、政府から、とうもろこし800万トンを国内向けに確保し、超過分については輸出を自由化することと、年産1,200トン以下の生産者に対して、輸出税を還付する旨の発表が行われた。今後の情勢に注視する必要がある。

（我が国の輸入先国シェア2位（2008年数量ベース 0.5%）
世界の輸出量シェア 3位（2009/10年度 9.5%））

表-4 アルゼンチンのとうもろこし需給
(市場年度：翌年3月～翌々年2月)

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10			
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	22.0	12.6	14.0 (14.0)	-	11.1	
消費量	7.0	6.1	5.9 (6.8)	-	▲ 3.3	
うち飼料用	5.1	4.2	4.0 (4.9)	-	▲ 4.8	
輸出量	14.8	7.5	8.0 (7.5)	-	6.7	
輸入量	0.1	0.1	0.0 (0.0)	-	...	
期末在庫量	2.0	1.1	1.2 (0.8)	▲ 0.2	11.7	
期末在庫率	9.1%	8.2%	8.9% (5.3%)	▲ 1.4	0.8	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	3.41	2.25	1.90 (2.00)	-	▲ 15.6	
単収(t/ha)	6.45	5.60	7.37 (7.00)	-	31.6	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」
「World Agricultural Production」
IGC「Grain Market Report (24 September 2009)」

エ ブラジル

【需給状況】

ブラジルの生産量は、収穫面積は減少するものの、前年度に南部の主要生産地域で干ばつの影響を受け低下した単収が回復すると見込まれることから、前年度より1.0百万トン増加(2.0%)し、52.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用需要の増加等から前年度より1.0百万トン増加(2.2%)し、45.5百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より1.5百万トン増加(20.0%)し、9.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、前年度より2.0百万トン減少し、10.4百万トンとなり、期末在庫率も19.0%(4.8ポイント減)と低下する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、2008/09年度の実産量が、1.0百万トン上方修正されたことから、2009/10年度の期首在庫量が1.0百万トン上方修正された。また、2009/10年度の消費量が、0.5百万トン上方修正された。その結果、期末在庫量が0.5百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2008/09年度の

早期大豆の収穫後に作付けされた冬とうもろこしについては、10月上旬には、収穫がおおむね終了した。2009/10年度の夏とうもろこしの作付けは、10月上旬に、リオグランデドスル州およびパラナ州を中心に開始された。

オ EU-27

【需給状況】

EUの生産量は、とうもろこし価格の低下と生産コストの上昇による採算の悪化懸念から面積の減少が見込まれ、単収も天候に恵まれた前年度の高単収に比べ減少すると見込まれることから、前年度より6.1百万トン減少(▲9.8%)し、56.6百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用需要が減少することから前年度より1.2百万トン減少(▲2.0%)し、59.8百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より0.3百万トン減少(▲14.3%)し、1.5百万トンとなる見込みである。

輸入量は、前年度並みの、2.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、生産量が消費量を下回ることから前年度より2.2百万トン減少(▲32.3%)し、4.7百万トンとなり、期末在庫率も7.6%(3.4ポイント減)と低下する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、わずかに単収が上方修正されたことから、生産量が0.7百万トン上方修正され、消費量が飼料用需要の増加から0.5百万トン上方修正された。この結果、期末在庫量が0.2百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

9月中におおむね収穫が終了した。大豊作であった前年度には及ばないが、主産地のフランス、ハンガリー等で一昨年より生産量が上回る見込みである。

【貿易情報】

穀物の輸入関税の課税を2008年1月より停止していたが、2008年10月に再度導入した。

(世界の生産量シェア4位(2009/10年度 6.6%)
輸出量シェア2位(2009/10年度 10.7%))

表-5 ブラジルのとうもろこし需給
(市場年度: 翌年3月~翌々年2月) (単位: 百万トン)

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(CONAB)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	58.6	51.0	52.0 (51.5)	-	2.0
消費量	42.5	44.5	45.5 (46.0)	0.5	2.2
うち飼料用	36.0	37.0	38.5 (…)	0.5	4.1
輸 出 量	7.8	7.5	9.0 (8.0)	-	20.0
輸 入 量	0.7	0.8	0.5 (0.8)	-	▲ 37.5
期末在庫量	12.6	12.4	10.4 (9.5)	0.5	▲ 16.2
期末在庫率	25.0%	23.8%	19.0% (17.5%)	0.7	▲ 4.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	14.70	14.10	13.50 (13.50)	-	▲ 4.3
単収(t/ha)	3.99	3.62	3.85 (3.82)	-	6.4

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」
「World Agricultural Production」

CONAB 「Acompanhamento da Safra Brasileira de Graos」 (7 October 2009)

(世界の生産量シェア3位(2009/10年度 7.1%))

表-6 EU-27のとうもろこし需給(市場年度: 10月~翌年9月)
(単位: 百万トン)

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	47.6	62.7	56.6 (57.6)	0.7	▲ 9.8
消費量	63.9	61.0	59.8 (60.8)	0.5	▲ 2.0
うち飼料用	51.0	46.5	45.0 (45.5)	0.5	▲ 3.2
輸 出 量	0.6	1.8	1.5 (0.9)	-	▲ 14.3
輸 入 量	14.0	2.5	2.5 (3.3)	-	0.0
期末在庫量	4.5	6.9	4.7 (5.6)	0.2	▲ 32.3
期末在庫率	6.9%	11.0%	7.6% (9.1%)	0.3	▲ 3.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	8.44	8.92	8.66 (…)	-	▲ 3.0
単収(t/ha)	5.63	7.02	6.53 (…)	0.08	▲ 7.0

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」
「World Agricultural Production」

IGC 「Grain Market Report (24 September 2009)」

4 大麦

(1) 国際的な大麦需給の概要

○2009/10年度の大麦需給（予測）のポイント

大麦の供給面では、豊作であった前年度に比べて単収が低下することから、世界的な生産量の減少が見込まれている。

需要面では、飼料用需要およびその他需要が増加すると見込みから、消費量の増加が見込まれている。

期末在庫量については、生産量が消費量を上回ることから在庫がわずかに増加すると見込まれる。

【生産量】

生産量は、収穫面積の増加が見込まれるものの、好天に恵まれた昨年と比較して、単収が低下すると見通しから、豪州等で増産となるものの、ロシア、EU、カナダ、ウクライナ等の主要生産国で減産が見込まれ、世界全体では前年度より6.7百万トン減少(▲4.3%)し、147.2百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で4.4百万トン上方修正されており、国別にはロシア、EU、米国、カナダ、豪州が上方修正された。

【消費量】

消費量は、カナダ、米国等で減少するものの、飼料用需要を中心にEU、ウクライナで増加が見込まれ、世界全体では前年度より3.8百万トン増加(2.6%)し、147.1百万トンとなる見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は、世界全体で0.8百万トン上方修正されており、国別にはロシア、ウクライナ、カナダが上方修正され、米国が下方修正された。

【貿易量】

世界全体の貿易量は、2.4百万トン減少(▲12.4%)し、17.6百万トンとなる見込みである。

国別には、輸出国では、ロシア、EU等では減少が見込まれている。輸入国では、イランやシリア等では減少が見込まれている。

なお、前月からの予測の改訂は、世界全体では0.3百万トン下方修正された。輸出国についてはロシアが上方修正され、EUが下方修正された。

【期末在庫量】

期末在庫量は、世界全体で生産量が消費量を上回り、ロシア、EU、カナダ、ウクライナ等で減少するものの、米国、豪州で増加し、世界全体では前年度より0.1百万トン増加(0.5%)し、30.5百万トンとなる見込みであり、期末在庫率は20.7%(0.4ポイント減)となる見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は、世界全体で3.3百万トン上方修正されており、国別には、ロシア、米国、EU、カナダ、豪州で上方修正、ウクライナで下方修正された。

表－1 世界の大麦需給

(単位:百万トン)

年度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	133.0	153.9	147.2	4.4	▲ 4.3
EU-27	57.5	65.6	61.5	0.7	▲ 6.2
ロシア	15.7	23.1	18.0	2.0	▲ 22.1
カナダ	11.0	11.8	9.2	0.3	▲ 21.9
ウクライナ	6.0	12.6	12.0	-	▲ 4.8
豪州	7.2	7.0	7.8	0.2	11.4
トルコ	6.0	5.6	6.0	-	7.1
米国	4.6	5.2	5.0	0.4	▲ 5.3
消費量	134.5	143.3	147.1	0.8	2.6
うち飼料用	92.3	99.5	102.2	0.8	2.8
EU-27	54.2	57.5	59.5	-	3.5
ロシア	15.1	17.1	17.1	0.5	0.0
カナダ	7.9	9.1	8.2	0.1	▲ 10.1
サウジアラビア	7.4	7.7	7.5	-	▲ 2.6
トルコ	6.5	5.9	5.9	-	0.0
ウクライナ	5.1	5.3	6.4	0.3	19.8
米国	4.3	5.1	4.8	▲ 0.2	▲ 6.6
貿易量	15.5	20.0	17.6	▲ 0.3	▲ 12.4
(輸出)					
ウクライナ	1.0	6.4	6.0	-	▲ 5.8
豪州	3.4	3.5	3.5	-	0.0
EU-27	3.8	3.5	2.5	▲ 0.5	▲ 29.3
カナダ	3.0	1.5	1.5	-	1.1
ロシア	1.0	3.4	2.2	0.2	▲ 36.1
アルゼンチン	0.9	0.9	0.9	-	0.0
サウジアラビア	0.8	0.3	0.5	-	71.8
(輸入)					
サウジアラビア	7.4	7.6	7.5	-	▲ 1.3
日本	1.4	1.4	1.4	-	0.0
中国	1.1	1.5	1.5	-	0.0
イラン	0.3	1.9	1.0	-	▲ 47.4
シリア	0.2	1.7	1.0	-	▲ 41.2
チュニジア	0.6	0.4	0.3	-	▲ 18.0
モロッコ	0.3	0.3	0.1	-	▲ 60.0
期末在庫量	19.7	30.4	30.5	3.3	0.5
EU-27	5.6	10.4	10.0	1.1	▲ 3.7
カナダ	1.6	2.8	2.4	0.2	▲ 14.1
豪州	2.0	2.3	2.6	0.1	13.1
ロシア	1.0	3.7	2.5	1.3	▲ 32.5
サウジアラビア	2.4	2.3	2.3	-	▲ 1.3
米国	1.5	1.9	2.4	0.7	25.2
ウクライナ	0.8	1.8	1.4	▲ 0.3	▲ 19.6
期末在庫率	14.7%	21.2%	20.7%	2.2	▲ 0.4

資料：USDA「Grain: World Markets and Trade」、
「PS&D」

(2) 大麦の主要生産・輸出国等の需給状況

ア 豪州

【需給状況】

豪州の生産量は、収穫面積は前年度並であるが、2年連続で単収が増加するため、生産量は前年度より0.8百万トン増加(11.4%)し、7.8百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用向け需要の増加により、前年度より0.8百万トン増加(25.0%)し、4.0百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度並の3.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は前年度より0.3百万トン増加(13.1%)し、2.6百万トンとなる見込みである。また、期末在庫率は34.6%(0.3ポイント増)となる見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は、生産量が0.2百万トン上方修正され、消費量が0.1百万トン上方修正された。その結果、期末在庫が0.1百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の大麦の生育は、クイーンズランド州、ニューサウスウェールズ州の一部で9月上旬にわずかに降雨があったものの、降雨が少ない天候が続いている。豪州西部および南東部ではおおむね順調である。エルニーニョの影響の懸念もあり、天候に注視する必要がある。

イ カナダ

【需給状況】

カナダの生産量は、収穫面積は前年より減少し、豊作であった前年に比べ産地の乾燥等により単収が低下することから、前年度より2.6百万トン減少(▲21.9%)し、9.2百万トンとなると見込まれている。

消費量は、生産量の減少から前年度より0.9百万トン減少(▲10.1%)し、8.2百万トンとなる見込みである。

輸出量は前年度並の1.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は前年度より0.4百万トン減少(▲14.1%)し、2.4百万トンとなり、期末在庫率は25.3%(1.6ポイント減)と見込まれている。

なお、前月からの予測の改訂は、収穫面積が下方修正されたが、単収が上方修正されたことから生産量が0.3百万トン上方修正され、飼料用需要の上方修正により消費量が0.1百万トン上方修正された。その結果、期末在庫量が0.2百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の大麦の収穫は、平原三州で10月中旬現在、8割から9割程度終了した。生育期の産地の乾燥等はあったものの、収穫期の天候が良好であったため、単収が改善される見込みである。

我が国の輸入先国シェア 1位 (2008年数量ベース44.5%)
世界の生産量シェア 5位 (2009/10年度 5.3%)
輸出量シェア 2位 (2009/10年度 19.9%)

表-2 豪州の大麦需給(市場年度:11月~翌年10月)

年度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10			
			予測値(ABARE)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	7.2	7.0	7.8 (7.9)	0.2	11.4	
消費量	3.2	3.2	4.0 (2.6)	0.1	25.0	
うち飼料用	2.2	2.2	3.0 (2.2)	0.1	36.4	
輸出量	3.4	3.5	3.5 (4.3)	-	0.0	
輸入量	0.0	0.0	0.0 (...)	-	...	
期末在庫量	2.0	2.3	2.6 (...)	0.1	13.1	
期末在庫率	30.5%	34.2%	34.6% (...)	0.0	0.3	
(参考)						
収穫面積(百万ha)※	4.93	4.50	4.50 (4.48)	-	0.0	
単収(t/ha)	1.46	1.56	1.73 (1.76)	0.04	10.9	

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain:World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
ABARE「Australian crop report (15 September 2009)」(※ABAREは作付面積)

我が国の輸入先国シェア 3位 (2008年数量ベース21.9%)
世界の生産量シェア 4位 (2009/10年度 6.2%)
輸出量シェア 5位 (2009/10年度 8.5%)

表-3 カナダの大麦需給(市場年度:8月~翌年7月)

年度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10			
			予測値(AAFC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	11.0	11.8	9.2 (9.2)	0.3	▲21.9	
消費量	7.9	9.1	8.2 (7.9)	0.1	▲10.1	
うち飼料用	6.6	7.7	6.8 (7.4)	0.1	▲11.9	
輸出量	3.0	1.5	1.5 (2.3)	-	1.1	
輸入量	0.1	0.0	0.1 (0.0)	-	19.0	
期末在庫量	1.6	2.8	2.4 (1.8)	0.2	▲14.1	
期末在庫率	14.3%	27.0%	25.3% (27.0%)	1.3	▲1.6	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	4.00	3.50	3.00 (2.99)	▲0.04	▲14.3	
単収(t/ha)	2.75	3.37	3.07 (3.07)	0.13	▲8.9	

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain:World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
AAFC「Grains and Oilseeds Outlook (8 October 2009)」

ウ 米国

【需給状況】

米国の生産量は、単収は前年度より増加するものの、収穫面積が減少することから前年度より0.2百万トン減少（▲5.3%）し、5.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用需要の減少により、前年度より0.3百万トン減少（▲6.6%）し、4.8百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度並の0.3百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は前年度より0.5百万トン増加（25.2%）して2.4百万トンとなり、期末在庫率は47.3%（11.6ポイント増）となる見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は、生産量が単収の上方修正から0.4百万トン上方修正され、消費量が0.2百万トン下方修正された。その結果、期末在庫量は0.7百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の大麦は、収穫が9月におおむね終了した。

〔我が国の輸入先国シェア2位（2008年数量ベース32.1%）
世界の生産量シェア 7位（2009/10年度 3.4%）〕

表－4 米国の大麦需給（市場年度：6月～翌年7月）

年度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	4.6	5.2	5.0	0.4	▲ 5.3
消費量	4.3	5.1	4.8	▲ 0.2	▲ 6.6
うち飼料用	0.7	1.4	1.1	▲ 0.2	▲ 24.8
輸出量	0.9	0.3	0.3	-	13.5
輸入量	0.6	0.6	0.7	-	3.3
期末在庫量	1.5	1.9	2.4	0.7	25.2
期末在庫率	28.4%	35.7%	47.3%	14.5	11.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	1.42	1.53	1.26	▲ 0.01	▲ 17.6
単収(t/ha)	3.23	3.42	3.92	0.38	14.6

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」

○ 米国大麦の進捗状況及び作柄

〔生育進捗状況（2009/10年度 主要5州）（9月27日現在）〕
収穫率 95%（平年差：▲3p、前年差：▲2p）

〔作柄〕（9月6日現在）

		単位：%				
		優良	良	普通	不良	極不良
大麦	2009/10	19	59	17	4	1
	前年度同時期	-	-	-	-	-
	前年度最終	8	44	34	10	4

注：優良-Excellent、良-Good、普通-Fair、不良-Poor、極不良-Very Poor

資料：USDA「Crop Progress」

注1：生育進捗状況の（ ）内は前年同時期及び同時期の平年値（過去5年）との比較である。

注2：9月6日の公表値に前年度同時期のデータは含まれていない。

エ EU-27

【需給状況】

EUの生産量は、豊作であった前年度と比較して、スペインや東欧等の乾燥により単収が前年度より低下することと、収穫面積が減少するため、前年度より4.1百万トン減少(▲6.2%)し、61.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用需要の増大により、前年度より2.0百万トン増加(3.5%)し、59.5百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より1.0百万トン減少(▲29.3%)し、2.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は前年度より0.4百万トン減少(▲3.7%)し10.0百万トンとなり、期末在庫率は16.2%(0.9ポイント減)となる見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は、収穫面積、単収が上方修正されたことにより生産量が0.7百万トン上方修正され、輸出量が0.5百万トン下方修正された。この結果、期末在庫量が1.1百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の大麦は、9月におおむね収穫が終了した。また、2010/11年度の冬大麦の作付けが10月中に終了する見込みである。

【貿易情報】

穀物の輸入関税を2008年1月より停止していたが、2008年10年に再導入した。

オ ウクライナ

【需給状況】

ウクライナの実産量は、天候に恵まれ豊作であった前年度と比較して、収穫面積は増加するものの、雨が少なかったことから単収が低下すると見込まれ、前年度より0.6百万トン減少(▲4.8%)し、12.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より1.1百万トン増加(19.8%)し、6.4百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の減少を受け、前年度より0.4百万トン減少(▲5.8%)し、6.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は前年度より0.4百万トン減少(▲19.6%)し、1.4百万トンとなり、期末在庫率は11.4%(3.6ポイント減)となる見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は、飼料需要の上方修正により消費量が0.3百万トン上方修正された。この結果、期末在庫量が0.3百万トン下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の大麦については8月に収穫が終了した。2010/11年度の冬大麦の作付けが行われている。

【貿易情報】

輸出量の枠が設定されていたが、2008年5月に撤廃された。

世界の生産量シェア 1位 (2009/10年度 41.7%)
輸出量シェア 3位 (2009/10年度 14.2%)

表-5 EU-27の大麦需給 (市場年度: 7月~翌年6月)

(単位:百万トン)

年度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	57.5	65.6	61.5 (61.2)	0.7	▲ 6.2
消費量	54.2	57.5	59.5 (55.4)	-	3.5
うち飼料用	38.7	41.5	43.5 (41.9)	-	4.8
輸出量	3.8	3.5	2.5 (5.4)	▲ 0.5	▲ 29.3
輸入量	0.3	0.3	0.2 (0.3)	-	▲ 49.8
期末在庫量	5.6	10.4	10.0 (10.5)	1.1	▲ 3.7
期末在庫率	9.7%	17.1%	16.2% (17.2%)	1.9	▲ 0.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	13.76	14.57	14.27 (…)	0.03	▲ 2.1
単収(t/ha)	4.18	4.50	4.31 (…)	0.04	▲ 4.2

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
IGC 「Grain Market Report (24 September 2009)」

世界の生産量シェア 3位 (2009/10年度 8.1%)
輸出量シェア 1位 (2009/10年度 34.2%)

表-6 ウクライナの大麦需給 (市場年度: 7月~翌年6月)

(単位:百万トン)

年度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	6.0	12.6	12.0 (11.5)	-	▲ 4.8
消費量	5.1	5.3	6.4 (6.3)	0.3	19.8
うち飼料用	3.5	3.8	4.7 (4.6)	0.3	22.4
輸出量	1.0	6.4	6.0 (5.0)	-	▲ 5.8
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	25.0
期末在庫量	0.8	1.8	1.4 (1.6)	▲ 0.3	▲ 19.6
期末在庫率	13.4%	15.1%	11.4% (14.3%)	▲ 2.3	▲ 3.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	4.10	4.15	5.00 (…)	-	20.5
単収(t/ha)	1.46	3.04	2.40 (…)	-	▲ 21.1

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
IGC 「Grain Market Report (24 September 2009)」

カ ロシア

【需給状況】

ロシアの生産量は、前年度より5.1百万トン減少（▲22.1%）し、18.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度並みの17.1百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の減少を受け、前年度より1.2百万トン減少（▲36.1%）し、2.2百万トンとなる見込みである。

期末在庫量は、1.2百万トン減少（▲32.5%）し2.6百万トンとなり、期末在庫率は12.9%（5.1ポイント減）となる見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は、シベリア地域の単収の向上により、生産量が2.0百万トン上方修正され、消費量が0.5百万トン上方修正、輸出量が0.2百万トン上方修正された。この結果、期末在庫量は1.3百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の大麦の収穫は10月中旬におおむね終了した。

ロシア農業省の発表では、10月20日時点の大麦の収穫量は18.5百万トンで、豊作であった前年同時期の77%程度である。シベリアで天候に恵まれ単収が増加したが、南ウラルや沿ボルガ地域の一部での干ばつの影響等から、豊作であった前年度より単収が減少する見込みである。

2010/11年度の冬大麦の作付けが行われており、10月中にはほぼ終了する見通しである。

【貿易情報】

2008年7月1日まで、輸出税が賦課されていた。

（世界の生産量シェア 2位（2009/10年度 12.2%）
輸出量シェア 4位（2009/10年度 12.5%））

表－7 ロシアの大麦需給（市場年度：7月～翌年6月）

(単位:百万トン)

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	15.7	23.1	18.0 (17.5)	2.0	▲ 22.1
消 費 量	15.1	17.1	17.1 (17.3)	0.5	0.0
うち飼料用	10.5	12.3	12.4 (12.3)	0.4	0.8
輸 出 量	1.0	3.4	2.2 (2.3)	0.2	▲ 36.1
輸 入 量	0.2	0.1	0.1 (0.2)	-	0.0
期末在庫量	1.0	3.7	2.5 (2.4)	1.3	▲ 32.5
期末在庫率	6.4%	18.0%	12.9% (12.5%)	6.5	▲ 5.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	9.60	9.60	9.10 (…)	-	▲ 5.2
単収(t/ha)	1.63	2.41	1.98 (…)	0.22	▲ 17.8

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
IGC「Grain Market Report (24 September 2009)」

5 ソルガム

(1) 国際的なソルガム需給の概要

○2009/10年度のソルガム需給（予測）のポイント

ソルガムの供給面では、アルゼンチン、インド、ナイジェリア等で増加するものの、米国で減少することから世界の生産量は減少が見込まれている。

需要面では、インド、ナイジェリア、メキシコ等で増加するが、米国で減少することから、世界の消費量は減少が見込まれている。

期末在庫量については、生産量が消費量を下回ることから減少し、期末在庫率は減少すると見込まれている。

【生産量】

生産量は、アルゼンチン、インド、ナイジェリア等で増加するものの、米国で減少することから世界全体では前年度より0.3百万トン減少（▲0.5%）し、63.9百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で1.5百万トン上方修正されており、国別には、米国で下方修正された。

【消費量】

消費量は、インド、ナイジェリア、メキシコ等で増加するものの、米国、EUで減少することから、世界全体では前年度よりわずかに減少（0.1%）し、64.2百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で1.8百万トン上方修正されており、国別にはメキシコが上方修正され、米国が下方修正された。

【貿易量】

世界全体の貿易量は、前年度より0.2百万トン増加（3.9%）し、5.9百万トンとなる見込みである。

国別には、輸出国ではアルゼンチンで輸出量の増加が見込まれている。一方、輸入国では、メキシコで輸入量の増加が見込まれている。

なお、前月の予測からの改訂は、全体では0.2百万トン上方修正された。輸出国では、豪州が上方修正され、中国が下方修正された。輸入国ではメキシコ、日本、チリが上方修正された。

【期末在庫量】

期末在庫量は、消費量が生産量をに上回ることから世界全体では前年度より減少（5.3%）し、4.3百万トンとなり、期末在庫率は6.8%（0.4ポイント減）と下落する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体でわずかに下方修正されており、国別にはアルゼンチンで上方修正、メキシコ、米国で下方修正された。

表-1 世界のソルガム需給

(単位:百万トン)

年度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	65.6	64.2	63.9	1.5	▲ 0.5
ナイジェリア	10.0	11.0	11.5	-	4.5
米国	12.6	12.0	9.2	▲ 0.7	▲ 23.0
インド	7.9	7.2	8.0	-	10.5
メキシコ	6.2	6.3	6.4	-	1.6
スーダン	4.5	4.7	4.7	-	0.0
アルゼンチン	2.9	1.7	3.3	-	98.8
エチオピア	2.7	2.6	2.6	-	▲ 0.7
消費量	65.4	64.2	64.2	1.8	▲ 0.1
うち飼料用	29.4	26.1	24.8	▲ 0.7	▲ 5.1
ナイジェリア	10.0	11.0	11.5	-	4.6
メキシコ	7.2	8.6	9.1	0.3	5.8
インド	7.9	7.2	8.0	-	11.1
米国	5.1	8.3	5.8	▲ 0.3	▲ 29.8
スーダン	5.0	5.0	5.0	-	0.0
エチオピア	2.6	2.7	2.7	-	0.0
EU-27	6.3	0.9	0.8	-	▲ 8.3
貿易量	9.8	5.7	5.9	0.2	3.9
(輸出)					
米国	7.0	3.6	3.6	-	▲ 2.1
アルゼンチン	1.2	0.7	1.0	-	42.9
豪州	0.8	1.1	1.0	0.3	▲ 9.1
ブラジル	0.1	0.0	0.1	-	300.0
中国	0.2	0.0	0.1	▲ 0.1	42.9
ナイジェリア	0.1	0.1	0.1	-	0.0
インド	0.1	0.1	0.0	-	▲ 50.0
(輸入)					
メキシコ	1.2	2.5	2.6	0.2	4.0
日本	1.1	1.6	1.5	0.2	▲ 6.3
EU-27	5.8	0.4	0.3	-	▲ 30.4
スーダン	0.3	0.3	0.3	-	0.0
チリ	0.4	0.4	0.4	0.1	0.0
イスラエル	0.1	0.1	0.1	-	0.0
ニジェール	0.1	0.1	0.1	-	0.0
期末在庫量	4.6	4.6	4.3	▲ 0.0	▲ 5.3
米国	1.3	1.4	1.2	▲ 0.0	▲ 11.5
メキシコ	0.4	0.6	0.5	▲ 0.1	▲ 17.5
スーダン	0.6	0.5	0.4	-	▲ 18.3
ナイジェリア	0.2	0.2	0.2	-	0.0
エチオピア	0.2	0.2	0.2	-	0.0
インド	0.2	0.2	0.2	-	▲ 14.1
アルゼンチン	0.2	0.1	0.7	0.5	571.4
期末在庫率	7.0%	7.1%	6.8%	▲ 0.3	▲ 0.4

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」

(2) ソルガムの主要生産・輸出国等の需給状況

ア 米国

【需給状況】

米国の生産量は、単収および収穫面積が減少することが見込まれていることから前年度より2.8百万トン減少（▲23.0%）し、9.2百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用需要の減少に加え、エタノール原料用需要も減少が見込まれることから前年度より2.5百万トン減少（▲29.8%）し、5.8百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度並の3.6百万トンとなる見込みである。

この結果、生産量が消費量と輸出量の計を下回ることから期末在庫量は前年度を0.2百万トン下回る1.2百万トンとなり、期末在庫率は13.1%（1.5ポイント増）となる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、2008/09年度の輸出量が0.1百万トン、消費量が0.3百万トン下方修正されたため、2009/10年度の期首在庫量が0.4百万トン上方修正された。また2009/10年度の前年度生産量が0.7百万トン、消費量が0.3百万トン下方修正された。この結果、期末在庫量はわずかに下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

米国のソルガムの主要11州の生育進捗は10月25日現在で着色がおおむね終了したが、成熟率は79%と前年より3ポイント、平年より9ポイント遅れている。収穫率は42%で平年より15ポイント、前年より6ポイント遅れている。

作柄については、優良～良が47%と、前年度の同時期（56%）及び最終（53%）を下回っている。

我が国の輸入先国シェア 1位（2008年数量ベース 46.5%）
世界の生産量シェア 2位（2009/10年度 14.5%）
輸出量シェア 1位（2009/10年度 59.8%）

表-2 米国のソルガム需給（市場年度：9月～翌年8月）

年度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	12.6	12.0	9.2	▲ 0.7	▲ 23.0
消費量	5.1	8.3	5.8	▲ 0.3	▲ 29.8
うち飼料用	4.2	5.9	3.6	▲ 0.3	▲ 39.8
輸出量	7.0	3.6	3.6	-	▲ 2.1
輸入量	0.0	0.0	0.0	-	▲ 100.0
期末在庫量	1.3	1.4	1.2	▲ 0.0	▲ 11.5
期末在庫率	11.1%	11.6%	13.1%	▲ 0.0	1.5

(参考)
収穫面積(百万ha) 2.75 2.94 2.30 ▲ 0.11 ▲ 21.8
単収(t/ha) 4.60 4.08 4.02 ▲ 0.09 ▲ 1.5
資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」

○ 米国ソルガムの生育進捗状況及び作柄（10月25日現在）

〔生育進捗状況〕

着色率 95%（平年差：▲4 p、前年差：▲3 p）
成熟率 79%（平年差：▲9 p、前年差：▲3 p）
収穫率 42%（平年差：▲18 p、前年差：▲6 p）

〔作柄〕

		単位：%				
		優良	良	普通	不良	極不良
ソルガム	2009/10	9	38	31	11	11
	前年度同時期	9	47	31	10	3
	前年度最終	9	44	33	11	3

注：優良-Excellent、良-Good、普通-Fair、不良-Poor、極不良-Very Poor

資料：USDA「Crop Progress」

注：生育進捗状況の（ ）内は前年同時期及び同時期の平年値（過去5年）との比較である。

イ アルゼンチン

【需給状況】

アルゼンチンの生産量は、前年度の干ばつの影響により、作付けが見送られたり収穫不能となって減少した収穫面積が2007/08年度と同水準まで回復すること、主要生産地域で低下した単収が回復すると見込まれることから、前年度より1.6百万トン増加（98.8%）し、3.3百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用需要の増加から前年度より0.6百万トン増加（61.9%）し、1.7百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の増加に伴い前年度より0.3百万トン増加（42.9%）し、1.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、前年度より0.6百万トン増加し（571.4%）、0.6百万トンとなり、期末在庫率は26.1%（20.1ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、消費量が0.5百万トン下方修正された。その結果、2009/10年度の期末在庫量は0.5百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2008/09年度のアルゼンチンのソルガムの収穫は、7月に終了した。

2009/10年度の作付けは、例年10月頃から開始される。

ウ 中国

【需給状況】

中国の生産量は、収穫面積が減少することから前年度より0.1百万トン減少（▲5.6%）し、1.7百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.1百万トン増加（2.5%）し、2.1百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度並の0.1百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、前年度より0.4百万トン減少し、0.0百万トンとなり、期末在庫率も1.3%（19.0ポイント減）と低下する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、2007/08年度の消費量が0.1百万トン下方修正、2008/09年度の消費量が0.3百万トン上方修正されたため、2009/10年度の期首在庫量が0.1百万トン下方修正された。また、2009/10年度の消費量が0.4百万トン上方修正、輸出量が0.1百万トン下方修正された。その結果、2009/10年度の期末在庫量は0.5百万トン下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

中国のソルガムの生育は、現在、収穫期であるが、主産地の東北地区で、7月末以降の高温乾燥による単収の減少懸念がある。

【貿易情報】

中国については、2007年12月に増値税の輸出還付を取り消し、2008年1月から輸出税を課していたが、12月1日からは、ソルガムの輸出税は撤廃されている。

（世界の輸出品シェア 2位（2009/10年度 16.8%））

表－3 アルゼンチンのソルガム需給

（市場年度：翌年3月～翌々年2月）

（単位：百万トン）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	2.9	1.7	3.3 (3.3)	-	98.8
消費量	1.7	1.1	1.7 (2.6)	▲ 0.5	61.9
うち飼料用	1.5	0.9	1.5 (2.3)	▲ 0.5	76.5
輸 出 量	1.2	0.7	1.0 (0.7)	-	42.9
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	...
期末在庫量	0.2	0.1	0.7 (0.1)	0.5	571.4
期末在庫率	6.7%	6.0%	26.1% (1.5%)	19.7	20.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	0.62	0.45	0.70 (...)	-	55.6
単収(t/ha)	4.74	3.69	4.71 (...)	-	27.6

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」
「World Agricultural Production」
IGC「Grain Market Report (24 September 2009)」

（我が国の輸入先国シェア3位（2008年数量ベース 10.3%）
世界の輸出品シェア 6位（2009/10年度 0.8%））

表－4 中国のソルガム需給（市場年度：10月～翌年9月）

（単位：百万トン）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	1.9	1.8	1.7 (1.8)	-	▲ 5.6
消費量	2.0	2.0	2.1 (...)	0.4	2.5
うち飼料用	0.1	0.1	0.1 (...)	0.0	▲ 50.0
輸 出 量	0.2	0.0	0.1 (0.1)	▲ 0.1	42.9
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (...)	-	...
期末在庫量	0.6	0.4	0.0 (...)	▲ 0.5	▲ 93.4
期末在庫率	28.7%	20.2%	1.3% (...)	▲ 28.1	▲ 19.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	0.50	0.45	0.43 (...)	-	▲ 4.4
単収(t/ha)	3.84	4.00	3.98 (...)	-	▲ 0.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」
「World Agricultural Production」
IGC「Grain Market Report (24 September 2009)」

エ 豪州

【需給状況】

豪州の生産量は、単収および収穫面積が減少すると見込まれることから、前年度より0.4百万トン減少（▲16.7%）し、2.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用需要の減少から前年度より0.3百万トン減少（▲19.9%）し、1.0百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より0.1百万トン減少（▲9.1%）し、1.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、前年度並みの、0.1百万トンとなり、期末在庫率も前年度より0.6ポイント増の5.6%となる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、生産量が0.3百万トン、消費量が0.5百万トン下方修正され、輸出量が0.3百万トン上方修正された。なお、期末在庫量の改訂は、行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の作付けは、干ばつのため、降雨のあったニューサウスウェールズ州北部で作付けが行われたのみであり、今後の天候に留意する必要がある。

オ インド

【需給状況】

インドの生産量は、単収が減少するものの、モンスーンの到来の遅れによる米からソルガムへ作付転換により収穫面積の増加が見込まれることから、前年度より0.8百万トン増加（10.5%）し、8.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、米の減産による食料用需要の増加に伴い、前年度より0.8百万トン増加（11.1%）し、8.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、前年度並みの0.2百万トンとなり、期末在庫率は1.9%（0.5ポイント減）と低下する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度のカリフ（雨期）期の作付けは、6月から開始され、現在、生育期を迎えている。10月9日までに、前年同期より19万ヘクタール（+6.6%）多い、約312.7万ヘクタールが作付けされており、平年の作付面積の8割の作付けが終了している。

土壌水分の不足による単収の低下懸念がある。

（我が国の輸入先国シェア2位（2008年数量ベース 35.4%）
世界の輸出量シェア 2位（2009/10年度 16.8%）

表-5 豪州のソルガム需給
（市場年度：翌年3月～翌々年2月）

年度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(ABARE)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	3.1	2.4	2.0 (1.9)	▲ 0.3	▲ 16.7
消費量	2.2	1.3	1.0 (0.8)	▲ 0.5	▲ 19.9
うち飼料用	2.2	1.3	1.0 (0.8)	▲ 0.5	▲ 20.0
輸出量	0.8	1.1	1.0 (1.1)	0.3	▲ 9.1
輸入量	0.0	0.0	0.0 (…)	-	…
期末在庫量	0.1	0.1	0.1 (…)	-	▲ 4.2
期末在庫率	2.4%	5.0%	5.6% (…)	0.6	0.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	1.03	0.80	0.68 (0.66)	▲ 0.07	▲ 15.0
単収(t/ha)	2.99	3.00	2.94 (2.80)	▲ 0.06	▲ 2.0

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「Grain: World Markets and Trade」

「World Agricultural Production」

ABARE 「Australian crop report (15 September 2009)」(※ABAREは作付面積)

（世界の生産量シェア3位（2009/10年度 12.5%）

年度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	7.9	7.2	8.0 (8.0)	-	10.5
消費量	7.9	7.2	8.0 (…)	-	11.1
うち飼料用	1.5	1.2	1.5 (…)	-	25.0
輸出量	0.1	0.1	0.0 (…)	-	▲ 50.0
輸入量	0.0	0.0	0.0 (…)	-	…
期末在庫量	0.2	0.2	0.2 (…)	-	▲ 14.1
期末在庫率	2.3%	2.4%	1.9% (…)	-	▲ 0.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	7.93	7.50	8.80 (…)	-	17.3
単収(t/ha)	1.00	0.97	0.91 (…)	-	▲ 6.2

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「Grain: World Markets and Trade」

「World Agricultural Production」

IGC 「Grain Market Report (24 September 2009)」

6 米

(1) 国際的な米需給の概要

○2009/10年度の米需給（予測）のポイント

米の供給面では、中国、タイ、等で増産されるものの、インド、バングラデシュ、インドネシア、ベトナムで減産することから、世界の生産量は減産が見込まれている。

需要面では、インドで減少するものの、中国、バングラデシュ、インドネシア、フィリピン、ミャンマー等で消費量が拡大し、世界の消費量は増加が見込まれている。

期末在庫量については、生産量が消費量を下回ることから在庫が取り崩され、期末在庫率も低下すると見込まれる。

【生産量】

生産量は、中国、タイ等で増加するものの、インド、バングラデシュ、インドネシア、ベトナムで減少が見込まれ、世界全体では前年度より12.0百万トン減少（▲2.7%）し、433.7百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.1百万トン上方修正されており、国別には、中国で上方修正され、フィリピン、バングラデシュで下方修正された。

【消費量】

消費量は、インドで減少が見込まれるものの、中国、バングラデシュ、インドネシア、フィリピン、ミャンマー等で増加し、世界全体では前年度より3.2百万トン増加（0.7%）し、438.5百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.5百万トン上方修正されており、国別には、中国で上方修正され、バングラデシュ、インドネシアで下方修正された。

【貿易量】

世界全体の貿易量は、前年度より2.0百万トン増加（7.1%）し、29.8百万トンとなる見込みである。

国別には、輸出国ではインド、ベトナムで輸出量の減少が、タイ、中国、パキスタン、エジプト、米国で輸出量の増加が見込まれている。一方、輸入国では、イラクで輸入量の増加が、マレーシア、フィリピンで輸入量の減少が見込まれている。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体では0.5百万トン上方修正され、国別には、輸出についてエジプトで下方修正、ベトナムで上方修正され、輸入についてEUで上方修正された。

【期末在庫量】

期末在庫量は、中国、インドネシア、タイ等で積み増しされるものの、インド、フィリピン、ベトナム、日本で減少が見込まれ、世界全体では前年度より4.8百万トン減少（▲5.3%）し、85.9百万トンとなる見込みであり、期末在庫率は19.6%まで減少する見込みである。

なお、前月からの改訂は、世界全体で1.0百万トン上方修正され、国別には、インドネシア、中国、ベトナム、フィリピンで上方修正された。

表－1 世界の米需給

(単位:百万トン)

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	433.4	445.7	433.7	0.1	▲ 2.7
中国	129.9	134.3	136.0	0.9	1.2
インド	96.7	99.2	84.0	-	▲ 15.3
インドネシア	37.0	38.3	37.6	-	▲ 1.8
バングラデシュ	28.8	31.0	30.0	▲ 1.0	▲ 3.2
ベトナム	24.4	24.4	23.8	-	▲ 2.6
タイ	19.3	19.4	20.0	-	3.1
フィリピン	10.5	10.8	10.7	▲ 0.2	▲ 0.4
消費量	428.1	435.3	438.5	0.5	0.7
中国	127.5	129.3	132.5	0.7	2.5
インド	90.5	93.2	89.5	-	▲ 3.9
インドネシア	36.4	37.1	37.4	▲ 0.3	0.8
バングラデシュ	30.7	31.0	31.4	▲ 0.4	1.3
ベトナム	19.4	19.2	19.2	-	0.0
フィリピン	13.5	13.7	14.0	-	2.6
ミャンマー	10.2	9.6	9.8	-	2.1
貿易量	31.1	27.8	29.8	0.5	7.1
(輸出)					
タイ	10.0	8.5	10.0	-	17.6
ベトナム	4.7	5.7	5.5	0.5	▲ 3.5
インド	4.7	2.0	1.5	-	▲ 25.0
パキスタン	3.0	3.0	3.3	-	10.0
米国	3.4	3.0	3.1	-	2.7
中国	1.0	0.8	1.3	-	62.5
エジプト	0.8	0.3	0.5	▲ 0.1	66.7
(輸入)					
フィリピン	2.6	2.6	2.4	-	▲ 7.7
イラン	1.5	1.7	1.7	-	0.0
ナイジェリア	1.8	1.6	1.6	-	3.7
サウジアラビア	1.0	1.4	1.4	-	0.7
EU-27	1.6	1.4	1.4	0.2	0.0
イラク	1.0	1.0	1.1	-	10.0
マレーシア	0.8	1.0	0.8	-	▲ 18.6
期末在庫量	80.4	90.7	85.9	1.0	▲ 5.3
中国	37.6	42.2	44.8	0.3	6.0
インド	13.0	17.0	10.0	-	▲ 41.2
インドネシア	5.6	7.1	7.6	0.8	7.1
タイ	2.2	3.1	3.5	-	13.1
フィリピン	4.4	4.1	3.2	0.1	▲ 21.7
日本	2.6	2.7	2.6	-	▲ 2.9
ベトナム	2.0	2.1	1.7	0.2	▲ 16.9
期末在庫率	18.8%	20.8%	19.6%	0.2	▲ 1.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「PS&D」

(2) 米の主要生産・輸出国等の需給状況

ア 中国

【需給状況】

中国の生産量は、単収は減少するものの、収穫面積が増加すると見込まれていることから、前年度より1.7百万トン増加（1.2%）し、136.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より3.2百万トン増加（2.5%）し、132.5百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より0.5百万トン増加（62.5%）し1.3百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は2.6百万トン増加（6.0%）し、44.8百万トンとなり期末在庫率も33.4%（1.0ポイント増）に上昇する見込みである。

なお、前月予測からの改訂は、生産量が0.9百万トン、消費量が0.7百万トン上方修正された。この結果、期末在庫量が0.3百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

東北地方、湖南省の一部、湖北省、広西チワン族自治区では、干ばつの被害を受けたものの、稲作への影響は小さい。全般的に見て、早生種の収穫量が増えるのは確実で、中生種、晩生種も生育の後期に自然災害が生じない限り豊作が見込まれる。

【貿易情報等】

中国については、2007年12月に増値税の輸出還付を取り消し、2008年1月から輸出税を賦課していたが、輸出税については2009年7月1日に撤廃された。また、以前より輸出割当許可証管理を行っている。

なお、中国政府は2009年度の作付けを推進させるために500万トンの備蓄を計画していたが、7月下旬から放出を開始した。10月中旬現在、概ね3割以上の落札があり、そのうちジャポニカ米については7割以上の落札率となっている。また、その予定数量に関しては、需給のバランスを保つため、省別に現状に合わせて決められているため、需給のバランスはとれる見込み。

世界の生産量シェア	1位（2009/10年度31.4%）
輸出量シェア	6位（2009/10年度4.4%）

表－2 中国の米需給（市場年度：翌年1月～翌年12月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(FAO)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	129.9	134.3	136.0 (133.4)	0.9	1.2
消費量	127.5	129.3	132.5 (127.2)	0.7	2.5
輸出量	1.0	0.8	1.3 (1.2)	-	62.5
輸入量	0.3	0.3	0.4 (0.9)	-	6.1
期末在庫量	37.6	42.2	44.8 (64.0)	0.3	6.0
期末在庫率	29.3%	32.4%	33.4% (49.8%)	0.0	1.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	28.92	29.40	29.80 (…)	-	1.4
単収(t/ha)	6.41	6.53	6.52 (…)	0.04	▲ 0.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、「PS&D」、
「World Agricultural Production」

イ インド

【需給状況】

インドの生産量は、モンスーンの降雨の時期の遅れと降水量不足のため、前年度より15.2百万トン減少（▲15.3%）し、84.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より3.7百万トン減少（▲3.9%）し、89.5百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より0.5百万トン減少（▲25.0%）し、1.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は7.0百万トン減少（▲41.2%）し、10.0百万トンとなり、期末在庫率も11.0%（6.9ポイント減）に減少する見込みである。

なお、前月からの改訂は、行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

2009年6月から7月にかけて、モンスーンの降雨の時期が遅れ、降水量が不足したことが、播種と移植にかなりの悪影響を及ぼすとともに、9月下旬の豪雨が米作に被害を与えた。10月16日現在、カリフ米（雨季）の作付面積は、前年同期の39.8百万ヘクタールに対し、32.7百万ヘクタールであった。特にカリフ米の主生産地であるウツタルプラデシュ、アンドラプラデシュでは、2009/10年度の作付面積は、2008/09年度に比べ、それぞれ33.2%、34.7%減少したと見られている。

【貿易情報】

インドについては、非バスマティ米の輸出が禁止されており、現在も継続しているが、非公式に特定の国に一部輸出されていた。なお、種子用の非バスマティ米に限り輸出禁止が2008年9月に解除された。また、米に輸出税を課していたが、2009年1月19日に撤廃された。

（世界の生産量シェア 2位（2009/10年度19.4%）
輸出量シェア 5位（2009/10年度 5.0%））

表－3 インドの米需給（市場年度：10月～翌年9月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値 (FAO)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率 (%)
生産量	96.7	99.2	84.0 (99.5)	-	▲ 15.3
消費量	90.5	93.2	89.5 (92.6)	-	▲ 3.9
輸出量	4.7	2.0	1.5 (4.0)	-	▲ 25.0
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	-	…
期末在庫量	13.0	17.0	10.0 (18.5)	-	▲ 41.2
期末在庫率	13.7%	17.9%	11.0% (19.2%)	-	▲ 6.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	43.77	44.00	40.00 (…)	-	▲ 9.1
単収(t/ha)	3.31	3.38	3.15 (…)	-	▲ 6.8

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、 「PS&D」、
「World Agricultural Production」
FAO 「Food Outlook (June 2009)」

ウ インドネシア

【需給状況】

インドネシアの生産量は、単収、及び、収穫面積の減少が見込まれるっており、前年度より0.7百万トン減少（▲1.8%）し、37.6百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.3百万トン増加（0.8%）し、37.4百万トンとなる見込みである。

輸入量は、前年度よりわずかに増加（20.0%）し、0.3百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、0.5百万トン増加（7.1%）し、7.6百万トンとなり、期末在庫率も20.2%（1.2ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月からの改訂は、2008/09年度の消費量が0.6百万トン、輸入量が0.1百万トン下方修正されたことにより、2009/10年度の期首在庫が0.5百万トン上方修正されるとともに、消費量が0.3百万トン下方修正された。この結果、期末在庫量が0.8百万トン上方修正された。

【貿易情報】

インドネシアについては、米の純輸入国であり主要な輸出国ではないが、2008年4月11日から輸出を禁止している。しかし、2008年の米の生産が豊作であったことを受け、政府は2009年4～6月に最大10万トンの高品質米の輸出を行うことを決定し、11社に輸出を許可した。なお、2009年7月から輸出は禁止されている。

エ タイ

【需給状況】

タイの生産量は、収穫面積の拡大と単収の増加が見込まれていることから、前年度より0.6百万トン増加（3.1%）し、20.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.7百万トン減少（▲6.7%）し、9.6百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より1.5百万トン増加（17.6%）し、10.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、0.4百万トン増加（13.1%）し、3.5百万トンとなり、期末在庫率も18.0%（1.4ポイント増）まで回復する見込みである。

なお、前月からの改訂は、行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

農業協同組合省米穀局によると、2009年度乾季作米の作付面積は2.0百万ヘクタールで作付けが行われ、8.4百万トンが収穫されると見込まれており、現在の生育状況は、約0.6%が出穂期、99.4%が収穫済みとなっている。

また、2009/10年度雨季作米については、8.9百万ヘクタールが作付けされており、生育状況は、約7%が播種期、32%が分けつ期、11%が出穂期となっている。なお、目標作付面積は、9.2百万ヘクタールとされている。

【貿易情報等】

2009年7月にタイとベトナムの米輸出団体は、米貿易での協力体制を強め、世界市場での交渉力の強化を目的とした合意書を取り交わした模様。協力内容は、主に生産状況や生産技術情報の交換、輸出条件の共有化等とされている。

〔世界の生産量シェア 3位（2009/10年度 8.7%）〕

表－4 インドネシアの米需給（市場年度：翌年1月～翌年12月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(FAO)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	37.0	38.3	37.6 (38.4)	-	▲ 1.8
消費量	36.4	37.1	37.4 (37.7)	▲ 0.3	0.8
輸出量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	-	▲ 100.0
輸入量	0.4	0.3	0.3 (0.2)	-	20.0
期末在庫量	5.6	7.1	7.6 (3.4)	0.8	7.1
期末在庫率	15.4%	19.0%	20.2% (9.0%)	2.1	1.2

(参考)

収穫面積(百万ha)	11.90	12.17	12.00 (…)	0.15	▲ 1.4
単収(t/ha)	4.82	4.88	4.86 (…)	▲ 0.06	▲ 0.4

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、 「PS&D」、
「World Agricultural Production」
FAO 「Food Outlook (June 2009)」

〔世界の生産量シェア 6位（2009/10年度 4.6%）
輸出量シェア 1位（2009/10年度33.5%）〕

表－5 タイの米需給（市場年度：翌年1月～翌年12月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(FAO)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	19.3	19.4	20.0 (20.6)	-	3.1
消費量	9.6	10.3	9.6 (12.0)	-	▲ 6.7
輸出量	10.0	8.5	10.0 (8.3)	-	17.6
輸入量	0.0	0.3	0.0 (0.2)	-	▲ 96.7
期末在庫量	2.2	3.1	3.5 (4.7)	-	13.1
期末在庫率	11.3%	16.6%	18.0% (23.2%)	-	1.4

(参考)

収穫面積(百万ha)	10.60	10.68	10.72 (…)	-	0.4
単収(t/ha)	2.76	2.75	2.83 (…)	-	2.9

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、 「PS&D」、
「World Agricultural Production」
FAO 「Food Outlook (June 2009)」

オ ベトナム

【需給状況】

ベトナムの生産量は、単収及び作付面積が昨年度より減少すると見込まれることから前年度より0.6百万トン減少（▲2.6%）し23.8百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度並の19.2百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より0.2百万トン減少（▲3.5%）し、5.5百万トンとなる見込みである。一方輸入量は前年度並の0.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は1.7百万トンとなり、期末在庫率も7.1%（1.4ポイント減）と低下する見込みである。

なお、前月からの改訂は、2008/09年度の実産量が0.7百万トン上方修正されたことから、2009/10年度の期首在庫が0.7百万トン上方修正されるとともに、輸出量が0.5百万トン上方修正された。この結果、期末在庫量が0.2百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

秋稲単期作の2009年の作付面積は、一部で夏秋作への転向が行われたことにより若干の減少が予想されるものの、単収の向上が見込まれているため生産量は増加するとみられる。現在生育は順調で、2009年の生産量は、2008年よりも0.1百万トン多い9.1百万トンになると予想されている。

夏秋作の作付け面積は、7.3百万ヘクタールで、単収は1ヘクタールあたり4.78トン、生産量は11.3百万トンと推定されている。収穫済み面積は、1.8百万ヘクタールで作付面積の76.2%に達している。

なお、そのうちメコン川デルタ地帯では1.5百万ヘクタールで収穫が終了している。

【貿易情報等】

ベトナムについては、政府契約以外の輸出業者による新規輸出契約を停止していたが、2008年6月13日からこれを解除した。また、2008年8月15日からは、一定基準の輸出価格を超えた場合に輸出税が賦課されていたが、2008年12月19日に課税が停止された。

なお、2009年7月にベトナムとタイの米輸出団体は、米貿易での協力体制を強め、世界市場での交渉力の強化を目的とした合意書を取り交わした模様。協力内容は、主に生産状況や生産技術情報の交換、輸出条件の共有化等とされている。

カ フィリピン

【需給状況】

フィリピンの生産量は、単収が増加すると見込まれているものの、収穫面積の減少が見込まれていることから、前年度より0.1百万トン減少（▲0.4%）し、10.7百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.3百万トン増加（2.6%）し、14.0百万トンとなる見込みである。

輸入量は、前年度より0.2百万トン減少（▲7.7%）し、2.4百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、0.9百万トン減少（▲21.7%）し、3.2百万トンとなり、期末在庫率も23.0%（7.2ポイント減）と低下する見込みである。なお、前月からの改訂は、2008/09年度の輸入量が0.3百万トン上方修正されたことから、2009/10年度の期首在庫が0.3百万トン上方修正されるとともに、生産量が0.2百万トン下方修正された。この結果、期末在庫量が0.1百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

9月下旬から同国を襲った台風16号、17号の冠水等の被害により、収穫面積が0.1百万ヘクタール減少した。

（世界の生産量シェア 5位（2009/10年度 5.5%）
輸出量シェア 2位（2009/10年度18.5%））

表－6 ベトナムの米需給（市場年度：10月～翌年9月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(FAO)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	24.4	24.4	23.8 (26.0)	-	▲ 2.6
消費量	19.4	19.2	19.2 (20.5)	-	0.0
輸出量	4.7	5.7	5.5 (5.0)	0.5	▲ 3.5
輸入量	0.3	0.5	0.5 (0.2)	-	0.0
期末在庫量	2.0	2.1	1.7 (4.8)	0.2	▲ 16.9
期末在庫率	8.4%	8.4%	7.1% (18.8%)	0.8	▲ 1.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	7.41	7.39	7.29 (…)	-	▲ 1.4
単収(t/ha)	4.98	5.01	4.95 (…)	-	▲ 1.2

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、 「PS&D」、
「World Agricultural Production」
FAO 「Food Outlook (June 2009)」

（世界の生産量シェア 7位（2009/10年度 2.5%）
輸入量シェア 1位（2009/10年度 8.1%））

表－7 フィリピンの米需給（市場年度：10月～翌年9月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(FAO)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	10.5	10.8	10.7 (11.3)	▲ 0.2	▲ 0.4
消費量	13.5	13.7	14.0 (13.5)	-	2.6
輸出量	0.0	0.0	0.0 (…)	-	…
輸入量	2.6	2.6	2.4 (2.4)	-	▲ 7.7
期末在庫量	4.4	4.1	3.2 (2.1)	0.1	▲ 21.7
期末在庫率	32.7%	30.2%	23.0% (…)	1.0	▲ 7.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	4.35	4.53	4.45 (…)	▲ 0.05	▲ 1.8
単収(t/ha)	3.83	3.77	3.82 (…)	▲ 0.01	1.3

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、 「PS&D」、
「World Agricultural Production」
FAO 「Food Outlook (June 2009)」

キ 米国

【需給状況】

米国の生産量は、前年度より0.6百万トン増加（8.3%）し、7.1百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度並の4.1百万トン（1.0%）となる見込みである。

輸出量は、0.1百万トン増加（2.7%）し、3.1百万トンとなる見込みである。一方、輸入量は、前年度より0.1百万トン増加（9.8%）し、0.7百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、0.5百万トン増加（53.0%）し、1.5百万トンとなり、期末在庫率も20.7%（6.9ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月からの改訂は、生産量が0.1百万トン上方修正されたことにより、期末在庫量が0.1百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

生産量の増加は主に中粒種によるものである。

収穫作業は、春の作付けが遅れたことから、アーカンソー州、ミシシッピ州ミズーリ州で大幅に遅れている。

〔世界の輸出货量シェア 4位（2009/10年度 10.3%）〕

表－8 米国の米需給（市場年度：8月～翌年7月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(FAO)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	6.3	6.5	7.1 (7.2)	0.1	8.3
消費量	4.1	4.1	4.1 (4.3)	-	1.0
輸 出 量	3.4	3.0	3.1 (3.1)	-	2.7
輸 入 量	0.8	0.6	0.7 (0.7)	-	9.8
期末在庫量	0.9	1.0	1.5 (0.7)	0.1	53.0
期末在庫率	12.7%	13.7%	20.7% (9.5%)	1.2	6.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	1.11	1.20	1.26 (…)	0.01	5.0
単収(t/ha)	8.09	7.68	7.98 (…)	0.08	3.9

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、 「PS&D」、
「World Agricultural Production」
FAO 「Food Outlook (June 2009)」

○ 米国の米の生育進捗状況及び作柄（10月25日現在）

〔生育進捗状況〕

収穫率 85% （平年差：▲11p 前年差：9p）

〔作柄 主要6州〕

		単位：%				
		優良	良	普通	不良	極不良
米	2009/10	18	42	28	8	4
	前年度同時	18	44	25	11	2
	前年度最終	18	43	26	11	2

注：優良-Excellent、良-Good、普通-Fair、不良-Poor、極不良-Very Poor

資料：USDA 「Crop Progress」

注：生育進捗状況の（ ）内は同時期の平年値（過去5年）及び前年同時期との比較である。

作柄は、10月5日報告のデータである。

II 油糧種子

1 2009/10年度の国際的な油糧種子需給の概要

○2009/10年度の油糧種子需給（予測）のポイント

2009/10年度の油糧種子需給は、大豆の単収が回復する見込みから、油糧種子全体の生産量は増加すると見込まれており、搾油用需要を中心として消費量も増加が見込まれている。

また、期末在庫量は、生産量が消費量を上回ることから、油糧種子全体の需給は緩和されるものと見込まれる。

【生産量】

世界の油糧種子全体の生産量は、大豆の増加から前年度より30.9百万トン増加（7.8%）し、425.4百万トンとなる見込みである。

品目別には、なたねについては、カナダ、ウクライナで収穫面積が減少することから生産量の減少が見込まれるものの、大豆については、米国やアルゼンチン等で、昨年低下した単収が回復する見込みから生産量は増加すると見込まれている。

【消費量】

世界の油糧種子全体の消費量は、堅調な搾油需要の拡大などから、前年度より11.8百万トン増加（2.9%）し、411.7百万トンとなる見込みである。

品目別には、大豆については、アルゼンチン、中国で搾油用需要を中心とした増加が見込まれ、なたねについても、EU、カナダ、中国等で搾油用需要を中心とした増加が見込まれることから消費量は増加すると見込まれている。

【貿易量】

世界の油糧種子の貿易量は、1.3百万トン減少（▲1.4%）し、92.7百万トンとなる見込みである。

品目別には、大豆については、アルゼンチン、パラグアイが生産量の回復から輸出量の増加が見込まれている。一方、なたねについては、カナダ、ウクライナ等で減少することから、輸出量の減少が見込まれている。

【期末在庫量】

世界の油糧種子全体の期末在庫量は、11.0百万トン増加（20.1%）し、66.0百万トンとなる見込みである。また、油糧種子全体の期末在庫率は、期末在庫が積み増しされることから、16.0%と2.3ポイント増加する見込みである。

品目別には、なたねについては、生産量が消費量を下回り、期末在庫が取り崩されるものの、大豆については生産量が消費量を上回り、期末在庫を積み増すと見られている。

表－1 世界の油糧種子需給

(単位:百万トン)

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10			
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	油糧種子計	391.6	394.5	425.4	2.6	7.8
	うち、大豆	221.1	210.6	246.1	2.1	16.8
	なたね	48.3	57.9	57.8	1.2	▲ 0.1
	綿実	45.9	41.3	40.2	▲ 0.5	▲ 2.6
	ピーナッツ	32.4	34.4	31.5	▲ 0.3	▲ 8.3
ひまわり種	27.0	32.6	31.9	0.0	▲ 2.0	
消費量	油糧種子計	400.2	399.9	411.7	0.1	2.9
	うち、大豆	229.8	219.8	231.6	▲ 0.0	5.4
	なたね	48.9	55.2	58.2	0.6	5.5
	綿実	46.0	41.7	40.1	▲ 0.5	▲ 3.7
	ピーナッツ	32.3	33.7	31.6	▲ 0.3	▲ 6.2
ひまわり種	26.6	32.1	32.2	0.3	0.3	
うち、 搾油用	油糧種子計	338.3	337.5	348.2	0.5	3.2
	うち、大豆	201.9	192.0	201.0	0.0	4.7
	なたね	46.5	52.3	55.3	0.6	5.8
	綿実	34.4	32.0	31.5	▲ 0.1	▲ 1.7
	ピーナッツ	15.2	15.5	14.1	▲ 0.1	▲ 8.7
ひまわり種	23.7	28.4	28.5	0.1	0.4	
貿易量	油糧種子計	92.6	94.0	92.7	0.8	▲ 1.4
	うち、大豆	79.5	76.9	77.9	0.8	1.2
	なたね	8.2	11.9	9.9	0.1	▲ 16.7
	綿実	0.8	0.5	0.7	0.0	32.7
	ピーナッツ	2.4	2.3	2.3	0.0	0.9
ひまわり種	1.4	2.1	1.7	▲ 0.1	▲ 19.9	
期末在庫量	油糧種子計	62.3	55.0	66.0	4.5	20.1
	うち、大豆	52.9	42.1	54.8	4.3	30.3
	なたね	3.4	6.4	5.5	0.5	▲ 14.5
	綿実	1.2	0.8	0.8	0.0	2.5
	ピーナッツ	1.1	1.5	1.2	▲ 0.0	▲ 23.0
ひまわり種	3.4	3.6	3.3	▲ 0.3	▲ 9.4	
期末在庫率	油糧種子計	15.6%	13.7%	16.0%	1.1	2.3
	うち、大豆	23.0%	19.1%	23.7%	1.8	4.5
	なたね	7.1%	11.6%	9.4%	0.8	▲ 2.2
	綿実	2.7%	1.9%	2.0%	0.1	0.1
	ピーナッツ	3.3%	4.5%	3.7%	0.0	▲ 0.8
ひまわり種	12.7%	11.3%	10.2%	▲ 1.1	▲ 1.1	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds: World Markets and Trade」、「PS &D」

注：期末在庫率の「前月予測からの変更」と「対前年度増減率」は、前月予測及び前年度とのポイント差である。

【参考】2009/10年度の油糧種子需給予測の主な改訂（主要品目の前月予測と今月予測の差）

前月の予測からの改訂は、生産量は大豆がアルゼンチン、米国等で上方修正され、なたねがEU、カナダの単収の上昇等で上方修正され、油糧種子全体で2.6百万トン上方修正されている。また、消費量についてはなたねで上方修正され、油糧種子全体で0.1百万トン上方修正されている。期末在庫量は大豆、なたねともに上方修正され、油糧種子全体では4.5百万トン上方修正された。

○ 大豆

(単位:百万トン)

	生産量	消費量	うち、 搾油用	貿易量		期 末 在庫量
				輸出量	輸入量	
世界計	2.1	▲ 0.0	0.0	0.8	...	4.3
米国	0.1	▲ 0.0	-	0.7	-	0.3
ブラジル	-	-	-	▲ 0.8	-	0.6
カナダ	-	-	-	-	-	-
中国	▲ 0.5	0.4	0.4	-	1.0	0.6
アルゼンチン	1.5	▲ 0.5	▲ 0.5	-	-	2.8

○ なたね

(単位:百万トン)

	生産量	消費量	うち、 搾油用	貿易量		期 末 在庫量
				輸出量	輸入量	
世界計	1.2	0.6	0.6	0.1	...	0.5
カナダ	0.5	-	-	0.2	-	0.3
豪州	0.0	-	-	-	...	▲ 0.1
EU-27	0.6	0.5	0.5	-	-	0.1
中国	-	0.1	0.1	-	-	0.0
インド	-	-	-	-	-	-

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、"Oilseeds: World Markets and Trade"、「PS&D」

注：期末在庫量の変更については、2008/09年度の需給データの改訂により、2009/10年度の期首在庫量が修正されたことに伴う場合もある。

2 大豆

(1) 国際的な大豆需給の概要

○2009/10年度の大豆需給（予測）のポイント

大豆の供給面では、米国においては作付面積が過去最高を記録し、前年度低下した単収の回復が見込まれる。また南米では天候が平年並に推移すれば単収が回復する見込みであり、世界の生産量は増加が見込まれている。

需要面では、EUで減少するものの、引き続き中国等で搾油用需要を中心に拡大することから、世界の消費量は増加が見込まれている。

期末在庫量については、生産量が消費量を上回ることから、期末在庫率は前年度を上回ると見込まれる。

【生産量】

生産量は、中国等で減少するものの、世界第1位の生産・輸出国である米国や南米のアルゼンチン、ブラジル、パラグアイ等で増加することから、世界全体では前年度より35.5百万トン増加（16.8%）し、246.1百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で2.1百万トン上方修正されており、国別にはアルゼンチン、パラグアイ等で上方修正され、中国で下方修正された。

【消費量】

消費量は、搾油用需要を中心にEUで減少するものの、アルゼンチン、中国等で増加が見込まれることから、世界全体では前年度より11.8百万トン増加（5.4%）し、231.6百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体でわずかに下方修正されており、国別には中国で上方修正され、インド、アルゼンチン等で下方修正された。

【貿易量】

世界全体の貿易量は、前年度より1.0百万トン増加（1.2%）し、77.9百万トンとなる見込みである。

国別には、輸出国では前年度干ばつで減産したアルゼンチン、パラグアイで輸出量の増加が見込まれ、需要が集中していたブラジルで輸出量の減少が見込まれる。一方、輸入国では、貿易量の約5割を輸入する中国やEUの輸入量が減少するものの、その他のアジア諸国を中心に輸入量の増加が見込まれる。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.8百万トン上方修正されており、国別にはパラグアイ、米国の輸出量と中国の輸入量が上方修正され、ブラジルの輸出量が下方修正された。

【期末在庫量】

期末在庫量は、生産量が消費量を上回ることから世界全体では前年度より12.7百万トン増加（30.3%）し、54.8百万トンとなり、期末在庫率は23.7%（4.5ポイント増）と前年度を上回る見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で4.3百万トン上方修正されており、国別にはアルゼンチン、ブラジル、中国等で上方修正された。

表－1 世界の大豆需給

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	221.1	210.6	246.1	2.1	16.8
米国	72.9	80.7	88.5	0.1	9.5
ブラジル	61.0	57.0	62.0	-	8.8
アルゼンチン	46.2	32.0	52.5	1.5	64.1
中国	14.0	15.5	14.5	▲ 0.5	▲ 6.5
インド	9.5	9.1	9.0	-	▲ 1.1
パラグアイ	6.9	3.9	6.7	1.0	71.8
カナダ	2.7	3.3	3.5	-	6.1
消費量	229.8	219.8	231.6	▲ 0.0	5.4
うち搾油用	201.9	192.0	201.0	0.0	4.7
中国	49.8	51.3	54.1	0.4	5.3
米国	51.6	48.1	50.7	▲ 0.1	5.4
アルゼンチン	36.2	33.1	36.6	▲ 0.5	10.7
ブラジル	35.1	34.4	34.6	-	0.8
EU-27	16.1	13.9	13.2	-	▲ 5.0
インド	9.4	8.8	9.3	▲ 0.8	5.4
日本	4.2	3.9	4.1	-	6.8
貿易量	79.5	76.9	77.9	0.8	1.2
(輸出)					
米国	31.5	34.8	35.5	0.7	2.0
ブラジル	25.4	30.0	23.7	▲ 0.8	▲ 21.1
アルゼンチン	13.8	5.9	9.7	-	64.8
パラグアイ	5.4	2.4	4.9	0.9	104.2
カナダ	1.8	2.0	2.0	-	1.3
(輸入)					
中国	37.8	40.7	39.5	1.0	▲ 2.9
EU-27	15.1	13.0	12.4	-	▲ 4.6
日本	4.0	3.5	4.0	-	14.5
メキシコ	3.6	3.1	3.5	-	14.0
台湾	2.1	1.8	2.3	-	23.0
タイ	1.8	1.5	1.7	-	13.7
インドネシア	1.1	1.2	1.6	-	33.3
期末在庫量	52.9	42.1	54.8	4.3	30.3
アルゼンチン	21.8	16.1	22.8	2.8	41.5
ブラジル	18.9	11.6	15.5	0.6	33.3
中国	4.2	8.7	8.1	0.6	▲ 6.3
米国	5.6	3.8	6.3	0.3	66.3
EU-27	0.8	0.5	0.6	-	16.1
期末在庫率	23.0%	19.1%	23.7%	1.8	4.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds: World Markets and Trade」
「World Agricultural Production」

(2) 大豆の主要生産・輸出国等の需給状況

ア 米国

【需給状況】

米国の生産量は、需給のひっ迫見込みから農家の作付け意欲が増加し、作付面積が過去最高を記録した。また、天候が良好に推移したことから、前年度低下した単収の回復が見込まれ、前年度より7.7百万トン増加（9.5%）し、88.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、畜産向けの需要の回復による大豆粕需要の若干の増加や、搾油用需要の増加が見込まれることから、前年度より2.6百万トン増加（5.4%）し、50.7百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量が増加すると見込まれることから、前年度より0.7百万トン増加（2.0%）し、35.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、2.5百万トン増加（66.2%）し、6.3百万トンとなり、期末在庫率は7.2%（2.7ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、2008/09年度の実生産量で0.3百万トン上方修正、消費量で0.6百万トン下方修正、期末在庫量で0.8百万トン上方修正されたため、2009/10年度の期首在庫量で0.8百万トン上方修正された。収穫面積で下方修正されたものの単収の上方修正で生産量が0.1百万トン、供給量の増加、価格の低下、主に中国による世界的な輸入需要の増加により輸出量で0.7百万トン上方修正され、消費量でわずかに下方修正された。この結果、期末在庫量で0.3百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

大豆の主要18州の作付けは、雨がちな天候の影響でコーンベルト東側の主産地であるイリノイ州等で作付けが遅れたものの、7月初めにほぼ終了した。

その後は天候にも恵まれ、生育の遅れは取り戻しつつあったが、10月に入り低温で雨がちな天候により収穫作業に遅れが生じた。収穫率は44%で、前年度より31ポイント、過去5年の平均に比べ36ポイント下回り、収穫の進捗が約3週間遅れている。

作柄については、優良～良までの合計は65%と、前年度最終の57%を上回っているものの、収穫の遅れにより大豆の単収と品質が悪化する懸念があり、引き続き収穫期の天候に注視が必要である。

我が国の輸入先国シェア 1位（2008年数量ベース73.5%）
世界の生産量シェア 1位（2009/10年度 35.9%）
輸出量シェア 1位（2009/10年度 45.6%）

表－2 米国の大豆需給（市場年度：9月～翌年8月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	72.9	80.8	88.5	0.1	9.5
消費量	51.6	48.1	50.7	▲ 0.0	5.4
うち搾油用	49.1	45.2	46.0	-	1.7
輸出量	31.5	34.8	35.5	0.7	2.0
輸入量	0.3	0.4	0.3	-	▲ 34.1
期末在庫量	5.6	3.8	6.3	0.3	66.2
期末在庫率	6.7%	4.5%	7.2%	0.2	2.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	25.96	30.22	31.01	▲ 0.06	2.6
単収(t/ha)	2.81	2.67	2.85	0.01	6.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds: World Markets and Trade」
「World Agricultural Production」

○ 米国大豆の生育進捗状況（10月25日現在）

〔生育進捗状況(2009/10年度大豆)〕

収穫率 44%（平年差：▲36p、前年差：▲31p）

〔作 柄〕

		単 位 : %				
		優良	良	普通	不良	極不良
大豆	2009/10	15	50	25	7	3
	前年度同時期	…	…	…	…	…
	前年度最終	12	45	29	10	4

注：優良-Excellent、良-Good、普通-Fair、不良-Poor、極不良-Very Poor

資料：USDA「Crop Progress」

注：生育進捗状況の（ ）内は同時期の平年値（過去5年）及び前年同時期との比較である。

イ ブラジル

【需給状況】

ブラジルの生産量は、世界的な大豆需要の増加から、依然国際価格が高水準であることや、肥料価格下落の影響や、とうもろこしや綿花からの作付け転換により収穫面積の増加が見込まれることから、前年度より5.0百万トン増加（8.8%）し、62.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、搾油用の増加に伴い前年度より0.2百万トン増加（0.8%）し、34.6百万トンとなる見込みである。

輸出量は、搾油の増加やアルゼンチンの生産量の回復による輸出競争により前年度より6.3百万トン減少（▲21.1%）し、23.7百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、3.9百万トン増加（33.4%）し、15.5百万トンとなり、期末在庫率も26.5%（8.5ポイント増）と増加する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、2008/09年度の消費量で0.4百万トン下方修正、輸出量で0.6百万トン上方修正、期末在庫量で0.2百万トン下方修正されたため、2009/10年度の期首在庫量で0.2百万トン下方修正された。また、輸出量で0.8百万トン下方修正された。この結果、期末在庫量は0.6百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の大豆の作付けは、8月末から9月初めにかけて雨が降ったことで早期作付けに適した状態となり、平年より早く作付けが開始された。10月中旬で、2割程度作付けされた。

ウ カナダ

【需給状況】

カナダの生産量は、前年度に上昇した単収が低下するものの、主産地である東部のオンタリオ州とケベック州で収穫面積が増加する見込みであることから、前年度より0.2百万トン増加（6.1%）し、3.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、搾油用を中心に増加することから、前年度より0.1百万トン増加（6.8%）し、1.8百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度並みの2.0百万トンとなる見込みである。この結果、期末在庫量は、前年度より0.1百万トン増加（43.7%）し、0.3百万トンとなり、期末在庫率は6.6%（1.8ポイント増）となる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

カナダの大豆は、一部の地域では低温が続き、生育が遅れが生じたことで収穫の開始が遅れたものの、9月下旬頃から収穫が始まっている。

我が国の輸入先国シェア 2位（2008年数量ベース 15.3%）
世界の生産量シェア 2位（2009/10年度 25.2%）
輸出量シェア 2位（2009/10年度 30.4%）

表－3 ブラジルの大豆需給（市場年度：10月～翌年9月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(Conab)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	61.0	57.0	62.0 (62.8)	-	8.8
消費量	35.1	34.4	34.6 (36.4)	-	0.8
うち搾油用	32.1	31.4	31.6 ...	-	0.6
輸出量	25.4	30.0	23.7 (24.9)	▲ 0.8	▲ 21.1
輸入量	0.2	0.1	0.2 (0.1)	-	200.0
期末在庫量	18.9	11.6	15.5 (4.1)	0.6	33.4
期末在庫率	31.3%	18.0%	26.5% (6.7%)	1.3	8.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	21.30	21.70	22.50 (22.47)	-	3.7
単収(t/ha)	2.86	2.63	2.76 (2.79)	-	4.9

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds: World Markets and Trade」
「World Agricultural Production」
Conab (October 7, 2009)】

我が国の輸入先国シェア 3位（2008年数量ベース 8.8%）
世界の生産量シェア 7位（2009/10年度 1.4%）
輸出量シェア 5位（2009/10年度 2.6%）

表－4 カナダの大豆需給（市場年度：8月～翌年7月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(AAFC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	2.7	3.3	3.5 (3.6)	-	6.1
消費量	1.8	1.7	1.8 (1.9)	-	6.8
うち搾油用	1.4	1.3	1.4 ...	-	6.9
輸出量	1.8	2.0	2.0 (1.9)	-	1.3
輸入量	0.3	0.4	0.4 (0.3)	-	▲ 2.3
期末在庫量	0.2	0.2	0.3 (0.3)	-	43.7
期末在庫率	4.2%	4.8%	6.6% (8.6%)	-	1.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	1.17	1.21	1.40 (1.40)	-	15.7
単収(t/ha)	2.31	2.73	2.50 (2.58)	-	▲ 8.4

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds: World Markets and Trade」
「World Agricultural Production」
AAFC「Grains and Oilseeds (October 8, 2009)】

エ 中国

【需給状況】

中国の生産量は、主産地の一部で乾燥天候により単収が減少し、収穫面積がとうもろこしにシフトして減少すること等から、前年度より1.0百万トン減少（▲6.5%）し、14.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、搾油用需要の増加等から前年度より2.8百万トン増加（5.3%）し、54.1百万トンとなる見込みである。

輸入量は国家備蓄政策による影響で、国内大豆に比べ輸入大豆の割安感から輸入が前年度は増加したが、在庫が積み増しされたこと等から、1.2百万トン減少（▲2.9%）し、39.5百万トンとなる見込みである。なお、中国の輸入量は世界の約5割を占めている。

一方、輸出量は、前年度より0.1百万トン増加（19.0%）し、0.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は前年度より0.6百万トン減少（▲6.3%）し、8.1百万トンとなり、期末在庫率も14.9%（1.9ポイント減）となる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、2008/09年度の生産量で0.5百万トン下方修正、輸入量で0.9百万トン、期末在庫量で0.5百万トン上方修正されたため、2009/10年度の期首在庫量で0.5百万トン上方修正された。

また、中国政府の統計に基づき収穫面積の下方修正で生産量が0.5百万トン下方修正され、消費量で0.4百万トン、輸入量で1.0百万トン上方修正された。この結果、期末在庫量で0.6百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

中国の平年生産量の約40%を占める黒龍江省では、生育期の5月に乾燥天候で同省の45%以上が乾燥状態となり、さらに6～7月の降雨により被害があったことから、単収の低下が予想される。9月から収穫が始まり、10月中旬に終わる見込みである。

【貿易情報等】

2007年12月に増値税の輸出還付を取消し、2008年1月から輸出税を課していたが、残りの黄大豆と種子用大豆の輸出税についても2009年7月1日に撤廃された。

なお、中国政府は2009年の作付けを推進させるため、725万トンの備蓄をしていた。9月頃には新穀の収穫が始まることから、在庫スペースの確保のため、7月下旬から10月21日までに約650万トンの競売を行ったが、最低入札価格が現物市場の価格よりも上回るため、約10万トンの落札に留まっている。

我が国の輸入先国シェア4位（2008年数量ベース 2.3%）
世界の生産量シェア 4位（2009/10年度 5.9%）
輸入量シェア 1位（2009/10年度 50.7%）

表－5 中国の大豆需給（市場年度：10月～翌年9月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(Oil.W)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	14.0	15.5	14.5 (14.5)	▲ 0.5	▲ 6.5
消費量	49.8	51.3	54.1 (…)	0.4	5.3
うち搾油用	39.5	41.0	43.8 (43.8)	0.4	6.7
輸 出 量	0.5	0.4	0.5 (0.4)	-	19.0
輸 入 量	37.8	40.7	39.5 (41.5)	1.0	▲ 2.9
期末在庫量	4.3	8.7	8.1 (…)	0.6	▲ 6.3
期末在庫率	8.5%	16.8%	14.9% (…)	0.9	▲ 1.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	8.75	9.13	8.80 (8.90)	▲ 0.30	▲ 3.6
単収(t/ha)	1.60	1.70	1.65 (1.63)	-	▲ 2.9

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly (September 18, 2009)」

オ アルゼンチン

【需給状況】

アルゼンチンの生産量は、前年度は干ばつの影響で大幅な減少となったが、小麦等から大豆への面積のシフトで前年度より20.5百万トン増加（64.1%）し、52.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、搾油用需要を中心に増加することから、前年度より3.5百万トン増加（10.7%）し、36.6百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の回復に伴い、3.8百万トン増加（64.7%）し、9.7百万トンとなる見込み。

この結果、期末在庫量は前年度より6.7百万トン増加（41.5%）し、22.8百万トンとなり、期末在庫率は49.1%（7.9ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、2008/09年度の消費量で1.1百万トン、輸出量で0.1百万トン、輸入量で0.3百万トン下方修正され、期末在庫量で0.9百万トン上方修正されたため、2009/10年度の期首在庫量で0.9百万トン上方修正された。

また、他の作物から大豆への面積のシフトで生産量で1.5百万トン上方修正され、消費量で0.5百万トン下方修正された。この結果、期末在庫量で2.8百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の大豆の作付けは、例年11月初旬に開始される。

【貿易情報】

大豆輸出税を中心とした政府の農業政策に対し、2009年3月に大豆の輸出税の現行35%からの引き下げを求め、穀物の売却を拒否するストライキを行った。

なお、アルゼンチンの上院は8月20日に、大統領が穀物輸出税を設定する権限を1年間延長することを承認したことから、8月末に再度ストライキを行っており、依然として政府と農家で対立が続いている。

（世界の生産量シェア 3位（2009/10年度 21.3%）
輸出量シェア 3位（2009/10年度 12.5%）

表-6 アルゼンチンの大豆需給（市場年度：10月～翌年9月）

（単位：百万トン）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(Oil.W)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	46.2	32.0	52.5 (52.0)	1.5	64.1
消 費 量	36.2	33.1	36.6 (20.2)	▲ 0.5	10.7
うち搾油用	34.6	31.7	35.0 (19.3)	▲ 0.5	10.3
輸 出 量	13.8	5.9	9.7 (7.1)	-	64.7
輸 入 量	3.0	1.3	0.5 (0.1)	-	▲ 61.2
期末在庫量	21.8	16.1	22.8 (27.6)	2.8	41.5
期末在庫率	43.5%	41.3%	49.1% (101.0%)	6.6	7.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	16.37	16.00	18.55 (19.00)	0.55	15.9
単収(t/ha)	2.82	2.00	2.83 (2.74)	-	41.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds: World Markets and Trade」
「World Agricultural Production」
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly (September 18, 2009)」

3 なたね

(1) 国際的ななたね需給の概要

○2009/10年度のなたね需給（予測）のポイント

なたねの供給面では、EU、中国等で生産量が増加するものの、カナダ、ウクライナ等で減少することから、世界の生産量はわずかに減少が見込まれている。

需要面では、バイオディーゼル需要の拡大に伴い、EU、カナダ、中国等で搾油用需要を中心に世界の消費量は増加が見込まれている。

期末在庫量については、消費量が生産量を上回ることから在庫が取り崩され、期末在庫率も低下し、需給は再び引き締まると見込まれている。

【生産量】

生産量は、EU、中国等で増加するものの、カナダ、ウクライナ等で減少することから、世界全体では前年度より0.1百万トン減少（▲0.1%）し、57.8百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で1.2百万トン上方修正されており、国別にはEU、カナダ等で上方修正され、ロシアで下方修正された。

【消費量】

消費量は、バイオディーゼル需要の増加に伴う油糧種子全般での需要増大により、EU、中国、カナダ等で搾油用を中心とした増加が見込まれ、世界全体では前年度より3.0百万トン増加（5.5%）し、58.2百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.6百万トン上方修正されており、国別にはEU、中国等で上方修正された。

【貿易量】

世界全体の貿易量は、前年度より2.0百万トン減少（▲16.7%）し、9.9百万トンとなる見込みである。

国別には、主要輸出国であるカナダ、ウクライナ等で生産量が減少することから、輸出量の減少が見込まれている。一方、輸入国では、アラブ首長国連邦で増加するものの、中国で国内生産が増加することや、EUで国内生産の増加やウクライナの輸出量の減少により、輸入量の減少が見込まれている。

なお、前月の予測からの改訂は、カナダの輸出量で上方修正され、米国等の輸出量と輸入量が下方修正された。

【期末在庫量】

期末在庫量は、消費量が生産量を上回ることから、カナダ、中国、EU等で取り崩され、世界全体では前年度より0.9百万トン減少（▲14.5%）し、5.5百万トンとなり、期末在庫率も9.4%まで低下する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.5百万トン上方修正されており、国別にはカナダ、EU、米国等で上方修正され、豪州で下方修正された。

表－1 世界のなたね需給

(単位:百万トン)

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	48.3	57.9	57.8	1.2	▲ 0.1
EU-27	18.4	18.9	20.6	0.6	9.0
中国	10.6	12.1	13.2	-	9.1
カナダ	9.5	12.6	10.5	0.5	▲ 16.7
インド	5.5	7.0	7.1	-	1.4
ウクライナ	1.1	2.9	1.9	-	▲ 34.5
豪州	1.1	1.7	1.7	0.0	1.2
ロシア	0.6	0.8	0.7	▲ 0.1	▲ 6.9
消 費 量	48.9	55.2	58.2	0.6	5.5
うち搾油用	46.5	52.3	55.3	0.6	5.8
EU-27	19.1	21.2	22.3	0.5	5.5
中国	11.4	13.7	14.2	0.1	3.5
インド	5.9	6.6	7.1	-	6.3
カナダ	4.3	4.9	5.3	-	6.9
日本	2.3	2.2	2.2	-	▲ 0.9
メキシコ	1.3	1.5	1.4	-	▲ 6.4
米国	1.1	1.2	1.2	0.0	▲ 0.6
貿 易 量	8.2	11.9	9.9	0.1	▲ 16.7
(輸出)					
カナダ	5.8	7.5	6.1	0.2	▲ 18.5
ウクライナ	0.9	2.6	1.6	-	▲ 38.6
豪州	0.5	1.1	1.1	-	0.0
米国	0.4	0.2	0.3	▲ 0.1	30.9
EU-27	0.4	0.1	0.4	-	257.1
ロシア	0.1	0.1	0.1	▲ 0.0	11.1
カザフスタン	0.1	0.0	0.1	-	136.4
(輸入)					
EU-27	0.7	3.3	1.9	-	▲ 43.1
日本	2.3	2.2	2.2	-	2.3
メキシコ	1.3	1.5	1.4	-	▲ 6.8
中国	0.8	2.9	0.8	-	▲ 73.9
アラブ首長国連邦	0.5	0.5	1.0	-	84.5
米国	0.9	0.8	0.8	▲ 0.1	▲ 1.0
パキスタン	0.5	0.4	0.6	-	57.5
期末在庫量	3.4	6.4	5.5	0.5	▲ 14.5
EU-27	1.0	1.9	1.8	0.1	▲ 9.6
カナダ	1.5	1.8	1.2	0.3	▲ 34.9
中国	0.0	1.3	1.1	0.0	▲ 15.4
インド	0.1	0.5	0.5	-	11.3
豪州	0.3	0.3	0.2	▲ 0.1	▲ 2.0
米国	0.2	0.2	0.2	0.1	5.9
ロシア	0.1	0.2	0.2	0.0	▲ 23.0
期末在庫率	7.1%	11.6%	9.4%	0.8	▲ 2.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」

(2) なたねの主要生産・輸出国等の需給状況

ア カナダ

【需給状況】

カナダの生産量は、他の作物への作付け転換による収穫面積の減少や、単収の減少により、前年度より2.1百万トン減少（▲16.7%）し、10.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、新規工場の操業開始により搾油能力が拡大することで搾油用を中心に、前年度より0.4百万トン増加（6.9%）し、5.3百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の減少や消費量の増加で供給が減少することや、中国の輸入の減少等で、前年度より1.4百万トン減少（▲18.5%）し、6.1百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、0.6百万トン減少（▲34.9%）し、1.2百万トンとなり、期末在庫率も10.2%（4.1ポイント減）と減少する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、単収の上方修正で生産量で0.5百万トン、輸出量で0.2百万トン上方修正された。この結果、期末在庫量で0.3百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

カナダのなたねは、9月初旬頃に収穫が始まり、現在は終盤を迎えている。生育期間中の天候不順により、アルバータ州では単収が過去5年平均より約20%下回っている。一方、サスカチュワン州とマニトバ州では単収が平均を上回っているが、前年度より減少している。

イ 豪州

【需給状況】

豪州の生産量は、収穫面積や単収がわずかに増加し、前年度並みの1.7百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度並みの0.7百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度並みの1.1百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、0.1百万トン減少（▲2.0%）し、0.2百万トンとなり、期末在庫率も14.3%（0.4ポイント減）と減少する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、2008/09年度の生産量で0.2百万トン、輸出量で0.1百万トン、期末在庫量で0.1百万トン下方修正されたため、2009/10年度の期首在庫量で下方修正された。また、生産量でわずかに上方修正された。この結果、期末在庫量で0.1百万トン下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

豪州のなたねは、西豪州の一部地域で降雨不足があったものの、その後の天候で以前よりは作柄は回復したので平年を上回るが、前年度より単収の低下が予想される。また、8月まで降雨が少なかった同国東部のニューサウスウェールズ州等では9月上旬に降雨があり、乾燥による生育への影響が緩和された。なお、10月中旬頃に収穫が開始された。

我が国の輸入先国シェア 1位（2008年数量ベース 95.5%）
世界の生産量シェア 3位（2009/10年度 18.2%）
輸出量シェア 1位（2009/10年度 61.5%）

表-2 カナダのなたね需給（市場年度：8月～翌年7月）

(単位:百万トン)

年度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(AAFC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	9.5	12.6	10.5 (10.3)	0.5	▲ 16.7
消費量	4.3	4.9	5.3 (5.3)	-	6.9
うち搾油用	4.1	4.3	4.9 (…)	-	14.5
輸出量	5.8	7.5	6.1 (6.0)	0.2	▲ 18.5
輸入量	0.2	0.1	0.2 (0.2)	-	100.0
期末在庫量	1.5	1.8	1.2 (0.8)	0.3	▲ 34.9
期末在庫率	14.5%	14.3%	10.2% (6.6%)	2.9	▲ 4.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	6.23	6.49	6.20 (6.19)	-	▲ 4.5
単収(t/ha)	1.53	1.94	1.69 (1.66)	0.08	▲ 12.9

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」、
AAFC「Grains and Oilseeds (October 8, 2009)」

我が国の輸入先国シェア 2位（2008年数量ベース 4.5%）
世界の生産量シェア 6位（2009/10年度 3.0%）
輸出量シェア 3位（2009/10年度 10.6%）

表-3 豪州のなたね需給（市場年度：12月～翌年11月）

(単位:百万トン)

年度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(ABARE)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	1.1	1.7	1.7 (1.7)	0.0	1.2
消費量	0.6	0.7	0.7 (0.7)	-	1.5
うち搾油用	0.6	0.6	0.7 (0.7)	-	1.6
輸出量	0.5	1.1	1.1 (0.9)	-	0.0
輸入量	…	…	… (…)	…	…
期末在庫量	0.3	0.3	0.2 (…)	▲ 0.1	▲ 2.0
期末在庫率	25.3%	14.7%	14.3% (…)	▲ 3.5	▲ 0.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)※	1.06	1.25	1.26 (1.26)	0.01	0.8
単収(t/ha)	1.00	1.36	1.37 (1.37)	0.01	0.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」、
ABARE「Australian crop report (15 September 2009)」(※ABAREは作付面積)

ウ EU-27

【需給状況】

EUの生産量は、穀物価格の低下傾向により、小麦からなたねへの転換が促進され収穫面積が増加することから、前年度より1.7百万トン増加(9.0%)し、20.6百万トンとなる見込みである。

消費量は、EUではなたねは主要な油糧種子であり、バイオディーゼル需要の増加などから搾油需要が増加し、前年度より1.1百万トン増加(5.5%)し、22.3百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より0.3百万トン増加(257.1%)し、0.4百万トンとなり、輸入量は国内生産の増加や主な輸入先のウクライナの輸出量の減少で、前年度より1.4百万トン減少(▲43.1%)し、1.9百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、0.1百万トン減少(▲9.6%)し、1.8百万トンとなり、期末在庫率は7.7%(1.4ポイント減)と減少する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、収穫結果を反映して生産量で0.6百万トン、消費量で0.5百万トン上方修正された。この結果、期末在庫量で0.1百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2010/11年度のなたねの作付けが開始されたが、土壌水分の不足が懸念されている。

エ 中国

【需給状況】

中国の生産量は、2008年に中国政府が農家収入を保障するために、市場価格より高く買い上げる政策を行ったことにより作付意欲が高まり、前年度より1.1百万トン増加(9.1%)し、13.2百万トンとなる見込みである。

消費量は、搾油用需要を中心に前年度より0.5百万トン増加(3.5%)し、14.2百万トンとなる見込みである。

輸入量は、国内生産の増加で減少し、前年度より2.1百万トン減少(▲73.9%)し、0.8百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は0.2百万トン減少(▲15.4%)し、1.1百万トンとなり、期末在庫率は7.8%(1.7ポイント減)となる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、2008/09年度の消費量で0.1百万トン、輸入量で0.2百万トン、期末在庫量で0.1百万トン上方修正されたので、2009/10年度の期首在庫量が上方修正された。また、消費量が0.1百万トン下方修正された。この結果、期末在庫量はわずかに上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2010/11年度のなたねの作付けは10月中旬現在、8割弱程度進捗している。

世界の生産量シェア 1位 (2009/10年度 35.6%)
輸入量シェア 2位 (2009/10年度 19.1%)

表-4 EU-27のなたね需給(市場年度:7月~翌年6月)

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(Oil.W)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	18.4	18.9	20.6 (20.3)	0.6	9.0
消費量	19.1	21.2	22.3 (22.3)	0.5	5.5
うち搾油用	18.3	20.3	21.3 (21.3)	0.5	5.2
輸 出 量	0.4	0.1	0.4 (0.2)	-	257.1
輸 入 量	0.7	3.3	1.9 (1.9)	-	▲43.1
期末在庫量	1.0	1.9	1.8 (1.3)	0.1	▲9.6
期末在庫率	4.9%	9.1%	7.7% (5.8%)	0.3	▲1.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	6.55	6.25	6.53 (6.27)	0.03	4.5
単収(t/ha)	2.80	3.03	3.15 (3.24)	0.07	4.0

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly (September 18, 2009)」

世界の生産量シェア 2位 (2009/10年度 22.8%)
輸入量シェア 6位 (2009/10年度 7.6%)

表-5 中国のなたね需給(市場年度:10月~翌年9月)

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(Oil.W)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	10.6	12.1	13.2 (12.8)	-	9.1
消費量	11.4	13.7	14.2 (…)	0.1	3.5
うち搾油用	10.9	13.2	13.6 (…)	0.1	3.3
輸 出 量	0.0	0.0	0.0 (…)	-	…
輸 入 量	0.8	2.9	0.8 (…)	-	▲73.9
期末在庫量	0.0	1.3	1.1 (…)	0.0	▲15.4
期末在庫率	…	9.5%	7.8% (…)	0.0	▲1.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	5.64	6.50	7.00 (7.18)	-	7.7
単収(t/ha)	1.87	1.86	1.89 (1.78)	-	1.6

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly (September 18, 2009)」

オ インド

【需給状況】

インドの生産量は、単収が減少するものの収穫面積が増加する見込みであり、前年度より0.1百万トン増加（1.4%）し、7.1百万トンとなる見込みである。

消費量は、搾油用を中心に前年度より0.5百万トン増加（6.3%）し、7.1百万トンとなる見込みである。

輸出货量、輸入量とも貿易の実績はほとんどない。

この結果、期末在庫量は、前年度並みの0.5百万トンとなり、期末在庫率は7.5%（0.3ポイント増）となる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

インドのなたねは、例年9月ごろに作付けが開始されるが、土壌水分が不足しており、作付けが遅れている。

（世界の生産量シェア 4位（2009/10年度 12.3%））

表－6 インドのなたね需給（市場年度：10月～翌年9月）

(単位:百万トン)

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(Oil.W)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	5.5	7.0	7.1 (6.3)	-	1.4
消費量	5.9	6.6	7.1 (…)	-	6.3
うち搾油用	5.2	6.0	6.3 (…)	-	5.9
輸 出 量	0.0	0.0	0.0 (…)	-	25.0
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (…)	-	0.0
期末在庫量	0.1	0.5	0.5 (…)	-	11.3
期末在庫率	1.7%	7.2%	7.5% (…)	-	0.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	5.70	6.60	7.00 (6.40)	-	6.1
単収(t/ha)	0.96	1.06	1.01 (0.98)	-	▲ 4.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly (September 18, 2009)」

Ⅲ 今月のトピックス

【穀物輸出大国を目指すロシアが抱える問題】

2009/10年度のロシアの穀物生産は、前年度を上回る作付けが行われ生育も順調であったことから、豊作であった前年度を上回る史上最高の生産量が期待されていた。沿ヴォルガ連邦管区等を襲った6月の干ばつにより、主要穀物産地では大きな被害を受けたものの、生産量、貿易量ともに高いレベルになると見込まれ、今後の動向が注目される所。

1 世界第5位の穀物生産量(2008/09年度)

ロシアでは、2007年の砂糖価格の低迷からテンサイの作付を減らし、穀物の作付を増やしたことから、昨年度(2008/09年度)4,700万haの穀物が作付けされた。収穫面積は4,400万haで、記録的な豊作のなか1億800万トンの収穫があり、穀物の生産量は世界第5位となった。そのうち国内の消費等に向けられる7,000万トンを除いた3,800万トンが輸出可能となった。

本年6月には、エレーナ農業大臣が「10～15年後には現在の2倍の4,000～5,000万トンの輸出を目指し、世界穀物市場におけるシェアを20%にまで拡大する」旨表明している。

ウクライナ、カザフスタンを併せた黒海沿岸地域は世界の30～35%のシェアを占めるポテンシャルがあるとも言われているが・・・

2 穀物輸出に係るインフラの現状

実際の輸出に際しては鉄道貨車の有無、国の買い付け、国際価格の動向等に左右されるが、特に輸出のためのインフラに大きな問題を抱えている。

(1) ロシアでは6万トン級の船を受け入れることが可能な港はクラスノダール地区にある唯一水深の深い港であるノヴォロシースク港であり、それ以外にはロストフ州のアゾフ海沿岸にある3,000～5,000トン級の貨物船しか受け入れられない水深の浅い港がいくつかあるだけである。そのため、主な輸出先は地中海沿岸の北アフリカ諸国、欧州各国、及び紅海沿岸国に限られ、インド洋を越えるためにはクラスノダールまで運び込まなければならない。現在、クラスノダールでは保管倉庫も含め、穀物ターミナルの整備が進められている最中である。

(2) もう一つの問題は輸送用貨車である。大量の穀物輸送貨車が耐用年数を超えて処分されてからは、国内の穀物輸送が難しくなっている。ロシアには32,500両の穀物輸送用貨車があり、そのうちの60%は耐久年数の関係で2015年までに廃棄処分される。

2008年時点で5,000両の貨車が不足し、2013年までにこれが25,000両になるとみられている。カザフスタンにとってもこの問題は深刻で、同国が所有する穀物用貨車が極

図-1 連邦管区別穀物等生産量(2008/09年度)



図-2 南連邦管区ロストフ州周辺



図-3 船積み待つ貨物船(ロストフ港)



めて少なく、ロシアの貨車がふさがっていることから、黒海方面からの輸出が出来ず他のルートを探している模様である。

貨車の更新を行うためには投下資本の回収期間を短縮するために貨物の輸送料金を現行の2倍程度に値上げしなければならないとされている。現在でも穀物輸送料金が他の国々より高く、特に米国と比較した場合、1トン当たりの輸送量が、270kmの距離であれば米国の22ドルに対しロシアは33ドル、距離1250kmでは42ドルに対し55ドル、3500kmでは62ドルに対し83ドルとなっている。

(3) 収穫量が著しく増えている地域では保管問題が切迫した状況となっている。保管能力の不足は、南部で1220万トン、中央では700万トン、沿ヴォルガで500万トン分となっており、ロシア全体で2,500万トン分の保管能力が不足していることになる。そのため、大量に収穫された穀物は不適切な条件下で保管されることとなり、品質の低下を招いている。

現在ロシアにおける輸出のためのインフラは、1ヶ月に出荷できる最大の量約300万トン、シーズンを平均すると200万トンを超えることはないと言われ、年間では2,200万トン前後の穀物を取り扱うのが精一杯のようである。従って、保管場所、及び穀物輸送手段の不足から、港から遠く離れた中央部や沿ヴォルガ地方では極めて低いレベルで価格が形成されており、国の有効な支援策がなければロシアの穀物生産拡大計画の実現にもブレーキがかかることになる。2007/08年度に穀物輸出が1,300万トンに達した時はウクライナの輸送機関の助けを借りたが、2008/09年度はウクライナも自国の輸出を再開し、黒海沿岸の港は自国の穀物でいっぱいになったことから、ウクライナの港を通じての輸出が難しくなった。このため、実際にロシアが輸出できた穀物は2,300万トン程度とみられる。

3 低い収益性

穀物全体の収量はEU諸国のha当たり約5トンに比べ、ロシアは約2トンと低い。黒土地帯を中心に、ロシアの土壌の肥沃性はEU諸国のそれを上回ると言われており、適切な肥培管理を行えば、条件の良いところでは10トンも不可能ではないともいわれる。この原因として考えられるのは、気候条件が厳しいこともあるが、上述のようなインフラの未整備により収益の確保が難しいということもあげられる。昨年度のクラスノダールでのFOB価格は一般的な4等小麦でトン当たり約5,000ルーブル（約170USドル）で、ここから貨車等の国内輸送費を差し引くと、ロシア中央部ではトン当たり約4,000ルーブルの買付価格となる。穀物の生産コストは肥料や燃料代の上昇からトン当たり2,500~4,000ルーブルとなっており、肥料を十分に投与してはペイしないのが実態のようである。ロシアでは現在徹底した農業合理化が図られ、如何に投入費用、労働力を削るかが焦眉となっている。そのため、経営耕地面積は最低でも500haないと成り立たないとされ、土地の集約化が急速に進んでいる。一方で、合理化できない農業企業は破産の危機に陥っている。

4 800万トンの国家備蓄(不良在庫)

昨年度、国内市場の過剰供給を緩和し穀物価格下落を防ぐため、国家の介入による穀物の買い上げが行われ、全体として800万トンの国家備蓄が行われた。しかしながら、昨年度末までにその800万トンが適当な価格で内外で処分できなかったため今年度の在庫として残っており、本年に収穫された穀物の保管場所を圧迫している。この買い上げ、管理にあたり、国営の統一穀物会社が新たに編成されたが、昨年度の莫大な買い上げにより限度額を使い切っており、在庫を適正な価格で販売できない限り新たな買い付けが出来ない状況である。

以上のような国内の問題に加え、販路の確保、新しい市場の開拓が必要とされるが、国内に支払い能力のあるバイヤーが育っていないことなど、課題は多い。

図-4 穀物の生産量と収穫面積の推移

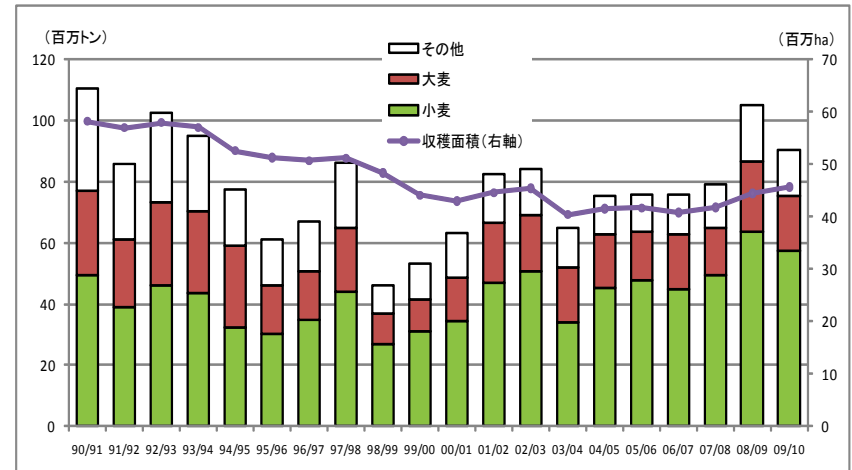
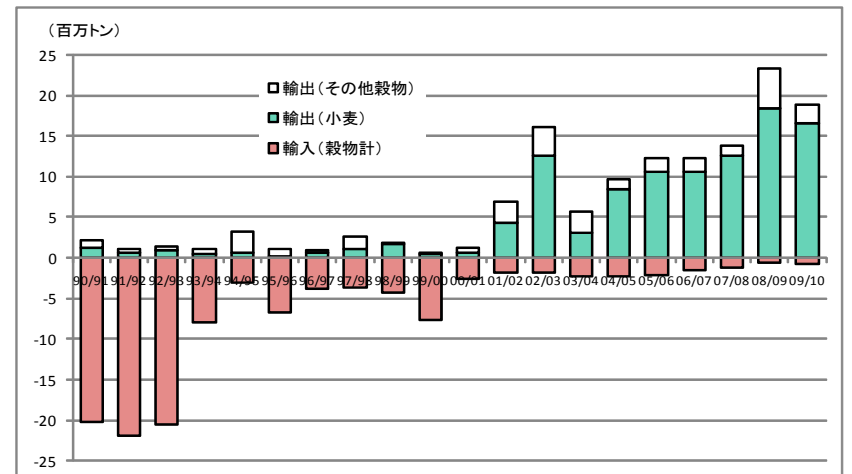


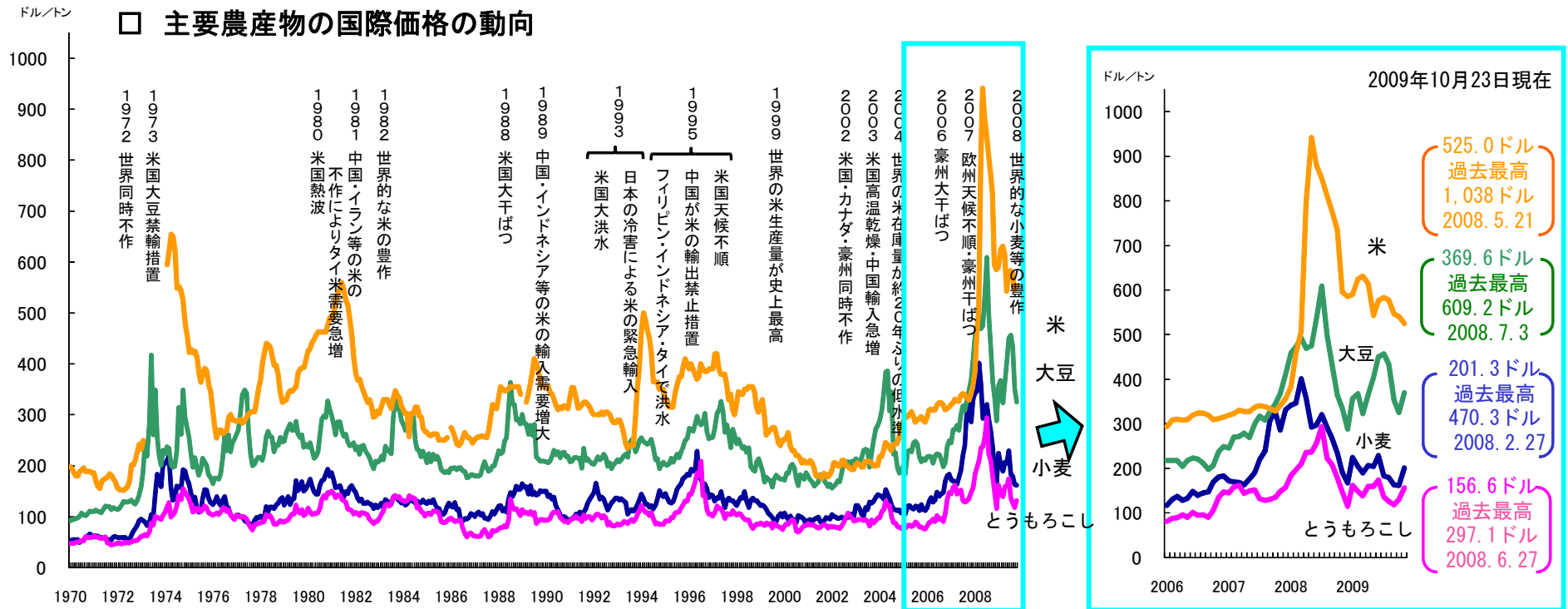
図-5 穀物の輸出量と輸入量の推移



資料：米国農務省「P S & D」Online

(参考) 世界の農産物価格の動向 (ドル/トン)

- 穀物等の国際価格は、2006年秋頃から上昇基調で推移し、2008年春から夏にかけて最高値を更新。その背景には、穀物市場への投機資金流入といった要因もあるが、基本的には、① 中国等の途上国の経済発展による食料需要の増大、② バイオ燃料による需要増大、③ 地球規模の気候変動の影響といった中長期的に継続する構造的な要因のほか、輸出国の輸出規制があった。特に米は、貿易量の割合が低いことから、価格変動幅が特に大きかった。2008年夏以降は、小麦等の豊作予測などに加え、世界金融危機による投機資金の流出、世界的な不況による穀物需要の減退懸念から最高値に比べ大幅に低下した。
- 2008年末以降、南米での干ばつ、米国の天候による作付けの遅れ、中国の旺盛な大豆の輸入需要等により、穀物価格は、再び上昇基調で推移。その後米国が良好な天候に恵まれたこと等から値を下げたものの、現在でも2006年秋頃に比べ1.4~1.9倍の水準。



注：小麦、とうもろこし、大豆は、各月ともシカゴ商品取引所の第1金曜日の期近価格である。

米は、タイ国貿易取引委員会公表による各月第1水曜日のタイうるち精米100%2等のFOB価格である。

注1：各月第1金曜日(米は第1水曜日)に加え、直近の最終金曜日(米は最終水曜日の価格)を記載。

注2：米以外の過去最高価格については、シカゴ商品取引所の全ての取引日における最高価格

【利用上の注意】

海外食料需給レポート (Monthly Report) は、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて調査した情報、公的機関 (各国政府機関、FAO、IGC等) の公表資料、民間の調査会社 (Oil World、インフォーマ社情報等) から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者によるワーキンググループ (※参照) において検証、整理、分析したものである。

※ワーキンググループメンバー：

大臣官房食料安全保障課、大臣官房国際部国際政策課、主要穀物等の所管課 (総合食料局食品産業振興課、食糧部計画課、食糧貿易課、生産局畜産部畜産振興課)、食品産業関係課 (総合食料局食品産業振興課、生産局生産流通振興課、畜産部畜産振興課)、農林水産政策研究所

- 海外食料需給レポート (Monthly Report) で使用している統計数値は、主に米国農務省が10月26日までに発表した当月分の情報を引用している。さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページ (<http://www.usda.gov/wps/portal/usdahome>) を参照されたい。
主な参考資料
「World Agricultural Supply and Demand Estimates (October 2009)」、
「Grain: World Markets and Trade (October 2009)」、
「Oilseeds: World Markets and Trade (October 2009)」、
「World Agricultural Production (October 2009)」、
「PS&D (October 2009)」など
- 2009/10年度の数値は予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されるものである。また、2007/08年度、2008/09年度の数値も、公式統計の確定・発表などを受けて今後変更されることがある。したがって、本資料に掲載している数値を利用する際は、今後変動しうる数値である点に留意いただきたい。
- 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として設定されている。同じ市場年度であっても、国、作物によって年度の開始月は異なる。収穫の時期が1年間に2回ある作物の場合は、どちらか一方の収穫時期に合わせて市場年度が設定されている。
例：米国小麦の2009/10年度は、2009年6月から2010年5月であり、この時期に収穫される作物に関して予測が行われる。2009/10年度であれば、2008年9月～10月に作付けされ2009年6月～7月に収穫される冬小麦と、2009年4月～5月に作付けされ2009年8月～9月に収穫される春小麦が、予測の対象となる。
各国別、作物別の市場年度は、米国農務省のホームページに掲載されている。
<http://www.fas.usda.gov/psdonline/psdAvailability.aspx>
- 各数量については、各国の市場年度により作成しているため、A国からB国に穀物等が輸出された場合、輸出された時点のA国の市場年度と輸入された時点のB国の市場年度が異なる場合がある。このため、世界合計の輸入量及び輸出量の両者の総量は一致しない場合がある。
また、各国の需給バランスについては、
$$\text{前年度期末在庫量} + \text{生産量} + \text{輸入量} = \text{消費量} + \text{輸出量} + \text{当年度期末在庫量}$$
となっており、これらを合計した世界計も同様の需給バランスとなっている。
したがって、世界合計の輸入量と輸出量が一致していない (世界合計の輸入量 ≠ 世界合計の輸出量) 場合には、
$$\text{前年度期末在庫量} + \text{生産量} \neq \text{消費量} + \text{当年度期末在庫量} \rightarrow \text{生産量} - \text{消費量} \neq \text{当年度期末在庫量} - \text{前年度期末在庫量}$$
となり、生産量と消費量の差が期末在庫量の増減量と一致しないことに留意いただきたい。
- 「今月のトピックス」については、干ばつ等の異常気象など特に注目すべき情報や各種機関等から最近公表された食料需給等に関連するレポートの内容の紹介など、さまざまな関連情報について提供することを目的としたものである。
- 本資料の引用等については、出所 (農林水産省発行「海外食料需給レポート (Monthly Report)」) を併記されたい。
なお、本資料に関するご質問、ご意見等は、農林水産省大臣官房食料安全保障課までお願いします。

TEL : 03-3502-8111 (内線3805)
FAX : 03-6744-2396